KJ
Study Abroad
Course（2018）

（25 期生平成 30 年度 3 年生ボストンキャンパスツアー　マサチューセッツ工科大学にて）

Your Eyes on the World
～まなざしは世界に～

Niigata Prefectural Kokusai Joho High School
新潟県立国際情報高等学校

目　次

(報告)海外大学進学コース活動の様子　3

1　海外大学進学コースとは　9

2　海外大学進学コースのプログラム　11

3　卒業生の合格大学一覧　17

4　卒業生からのレポート　20

5　FAQ(よく聞かれる質問)　31

6　海外大学の特徴　35

(1)海外の大学を選ぶには　37

(2)海外の大学に入学するためには　43

(3)海外の大学を卒業するためには　46

(4)海外の大学を受験する準備　47

(5)海外の大学への編入　51

(6)用語集　53

海外大学進学コース活動の様子　平成 29（2017）年度

（26 期 1 年生）

海外大学進学コース説明会にて

J Prep 代表の斉藤様より講演

卒業生とのトークセッション

ボストンキャンパスツアー

ハーバード大学にて学生とのトークセッション

現地の学生にインタビュー

ユースホステルにて夕食の自炊

現地の学生の前で最終プレゼン

（25 期 2 年生）

新潟県英語ディベート大会に出場（第 2 位、第 3 位、ベストディベーター賞）

1年生にむけてのプレゼンテーション

オープンスクールにて中学生に授業体験ワークショップ（グローバルスタディーズ）

（24 期 3 年生）

リベラルアーツ授業:西洋音楽史
スロヴァキア国立オペラ鑑賞

歌劇場総支配人との交流会

リベラルアーツ授業:中国史
科挙と国づくりについてプレゼンテーション

アクションプラン
学年集会で最終発表会

志賀学習合宿にて自分史プレゼンテーション　～自分の信念や価値観の確認～

5月講演会　グローバルリーダーとの対話

毘沙門堂案内ボランティア
留学生の皆さんに名刹を英語で案内

海外大学進学コース活動の様子　平成 28（2016）年度

（25 期 1 年生）

ハーバード大学キャンパスツアー

ブラウン大学にて交流セッション

マサチューセッツ工科大学の大講堂にて

現地の学生にインタビュー

「EU があなたの学校にやってくる」

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）
卒業生からの講演会

（24 期 2 年生）

オープンスクール　中学生に授業体験ワークショップ（グローバルスタディーズ）

新潟県英語ディベート大会（第3位）

SGH 成果発表会 オープニングを担当

2 月講演会①　アメリカ以外の選択肢～イギリスでの大学生活～

2 月講演会②　留学後のキャリア形成

ボランティア活動　レモネードスタンド

（23 期 3 年生）

留学キャラバン隊の日本人学生と交流

Global Studies II の授業風景

アクションプラン最終発表会①

アクションプラン最終発表会②

自分史を英語でスピーチ

志賀合宿にて自分史を英語でスピーチ

出願のエッセイ添削

UCLA 卒業生からの講演会

1　海外大学進学コースとは

(1)海外大学進学コースの概要

皆さん、人生は楽しいですか？毎日生き生きと過ごしていますか？

世界的な競争と共生が進む現代社会において、充実した日々を送るためには、広い視野に立って「自ら決定し、自ら歩んでいく」ことが必要だと海外大学進学コース課では考えています。本校の海外大学進学コースは、そういった皆さんの人生の重要な自己決定を手助けするコースです。自分が進むべきは日本の大学なのか、海外の大学なのか、自分の強みは何か、弱みは何か、世の中はどう動いているのかなど、コースに入ることで深く思考することができます。

世界と日本の社会の決定的な違いは、その「多様性」にあるといえます。そしてその多様性は、海外の大学にも如実に現れています。たとえばアメリカの大学教育は、幅広い知識と人間性を育成する教養主義（リベラルアーツ）の精神を基盤としていますが、その幅広い学びを目指して、世界各地から多様なバックグランドを持った学生が集まり、大学内にある寮で共同生活をしています。当然、同窓生の絆は強く、卒業して社会人となっても、寝食を共にした人間関係は国籍や人種に関わらず一生続く大きな財産となります。また、入学時に学部を選ぶ日本の大学とは異なり、文系、理系の明確な専攻の区別がなく、自分の興味関心に応じて大学が準備する多彩なプログラムを自由に組み合わせて選択することができます。その規模も様々で、例えば全米では、郊外に立地する学生数1,000人～3,000人程度の私立大学（リベラルアーツカレッジ）があります。学生が人文、社会、自然科学を多岐に渡りバランスよく学ぶことで、豊かな教養と人間性を育成することを目指しており、全米に約600校あります。また、大学院やビジネススクールなどを併設し、50,000人を超える学生が学ぶ総合大学が約3,000校あり、2年制大学も含めると、合計約4,500校が開校しています。日本の大学選びと異なり、自分に合った大学やプログラムを見つけやすいのが特徴です。

国内、海外どちらの大学へ進んだとしても、そういった多様な価値観が共存する社会で、「自分とは何者なのか」を問い続け、「人生を楽しむためにはどう生きるのか」を考え続ける必要があります。そしてそれこそが人生の醍醐味です。本コースは、人生を楽しみながら、世の中に良い変革を起こす「真の国際人」育成を目標に掲げています。海外大学進学コース（通称　海大進）に入り、深い思考をしながら、自らの成長を感じながら、KJ の3年間を充実したものにしましょう！

(2)コースの理念

多様な価値観が共存するグローバル社会において、課題を発見し、解決するために他者と協働できる能力を育成する

(3)コースの教育内容

世界で活躍できる人材を育成するために

①思考力・発信力を磨く〈グローバルスタディーズ（GS）〉

②キャリア（職業観）形成の幅を広げる〈グローバルリーダーとの対話〉

③海外大学で世界の学びを体験する〈キャンパスツアー〉

④友人と協働して、問題を発見し、解決する〈アクションプラン〉

が設定されています。

(4)求める生徒像

「自己決定力」、これがコースの目指す生徒像です。海外の大学では、「個人で自らの選択の判断が下せる大人」であることが求められます。大学側は、学生が自ら学ぶことを重視しており、その学生主導の学びの姿勢を尊重した教育システムが構成されています。ゆえに学生には多様な選択肢から自分にあった教育を選択できる、「個人の選択の自由」が最大限保障されています。大学入学後の専攻分野の変更や他大学への編入は日本の大学に比べて容易です。もちろん同時に、出席やレポートの提出、試験の規定は厳格で、進級に関しても成績が基準を満たさなければ退学させられることもあります。つまり、「授業に参加しない＝世の中に貢献していない」と考えられるのです。

厳しくも、自由を享受しながら、学生たちは友と励ましあい、助け合い、互いに良い自己決定を促しながら、4年間学び続けます。そのために必要になる資質は以下の様になります。

＜2年生 GS（グローバルスタディーズ）Ⅰ履修に求められる資質、能力＞

①基本的生活・学習習慣が身についており、自分の行動・学習に責任が持てる

②スポーツ、芸術、ボランティア活動に熱心に打ち込み、今後も続ける意欲がある

③GSⅠの授業で求められる英語力を有する

英語力については、英検、GTEC for Students、 GTEC CBT 等の英語検定試験で「CEFR（セファール:英語コミュニケーション能力を測る国際基準）B1レベル」を超えるようにしましょう。たとえば英検なら2級程度になります。なお、この3つの試験は校内で年間2回ずつ受験できます。

(5)コース生にかかる費用

通常の学習活動に加えて海外大学進学コース生がすべきことについて、簡単に費用を挙げます。

① キャンパスツアー（1年生10月に参加） 約40万円

② TOEFL iBT（英語の試験） 1回約2～3万円（約 US＄225）
※必要とされる点数を取得するまで受検ですので、生徒によって受験回数が異なります
過去の卒業生の必要スコアを取得するまでの受験回数は、6～8程度回でした。

③ SATか ACT（いずれもアメリカの大学に受験する為の共通試験） 1回約1万円＋東京往復の交通費・宿泊費
※希望する点数が取得できるまで受験できます。過去の卒業生は2～3回受験しましたが、早めの受験申込予約が必要となります。

④ 大学出願料（アメリカの場合大体1回で＄25～100）
※平均は＄40といわれている

⑤ 学生ビザ申請 約4万円（＄360）
※パスポート発行にかかる費用は別途必要

また、海外の大学の年間学費は約60万～500万円（＄60～500）と幅があります。各大学で異なるので、大学選びの際に意識しましょう。海外で生活する為の資金は、後述しますが、一般的に奨学金の種類は4つです。①日本国内のもの（日本学生支援機構や新潟県などの地方自治体）、②大学が独自に設定しているもの（大学ごとに調べる）③留学先の国が設定しているもの、④国内外の各種財団が設定している留学生奨学金、です。②③④を給付されるためには、厳しい基準をクリアする必要があります。なお、1期生、2期生では、各大学からの奨学金と柳井財団からの給付型奨学金を受けています。

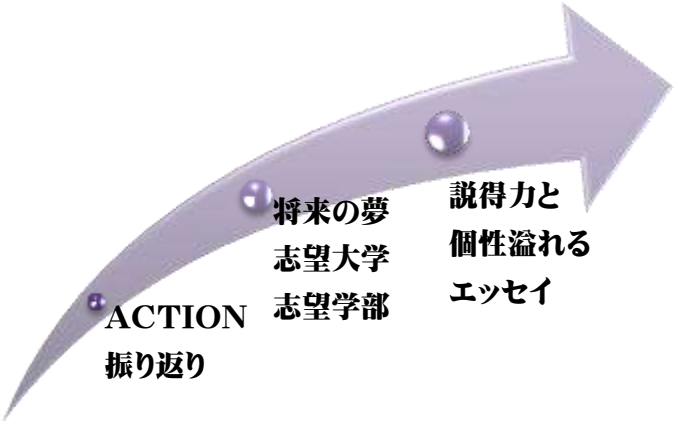
2　海外大学進学コースのプログラム

(1)コースの教育内容

ア. 学校設定科目　グローバルスタディーズ(GS) Ⅰ・Ⅱ

Your Eyes on the New World～まなざしは新世界に～

海外大学進学を目指すみなさんに向けて特別に設定された科目、それがグローバルスタディーズです。世界で学ぶためには、与えられた課題への正解を導き出すことからもう一歩踏み込んで、まだ認識されていない課題を自ら探し出し、それを解決していく能力が必要とされます。



そのための準備として、2年生のGSⅠでは、週4時間(K)の授業で論理的な思考力を身につけるためのグループワークや英語ディベートを通して、課題を発見する力やその課題を解決する力を養います。その上で、自分とその周りの人々の環境を改善するための具体的な行動計画(アクションプラン)を立案し実行することを目指します。例えば2期生では、外国人ツアー客のバスに乗り、車内で日本のマナーをレクチャーしました。文化的なギャップを埋めるという活動は好評でした。

3年生のGSⅡでは、海外大学進学に向けて、週4時間をかけてアカデミックコンテンツを通して世界を知り、グループディスカッションをします。かつ実行したアクションプランの振り返りやエッセイライティングを通して、自分の強みやユニークさを再認識し、海外大学出願を目指します。秋以降は、授業内で出願に必要となる書類を作成しますが、それまでの自己観察・内省に裏付けられた、明確な志望動機と将来のビジョンがエッセイに説得力と個性を持たせます。

イ. アメリカ大学キャンパスツアー（1年生）

コースを希望する皆さんに向けて、実際に海外の大学を訪れて現地の教育環境を体験できるキャンパスツアーを計画しています。アメリカの教育の発祥地であるボストンの特徴的な大学を訪れることで、海外大学の多様性を肌で感じることができます。現地の大学生や高校生と交流できる魅力的なプログラムです。費用は約40万円程度を予定しています。

- 期　間　1年生の秋
- 行　程　（平成 29(2017)年の例）

<table>
<tr><th>日</th><th>日　程</th><th>目　的</th></tr>
<tr><td>1日目</td><td>日本出発
同日、ボストン到着</td><td>ホテルで宿泊</td></tr>
<tr><td>2日目</td><td>オリエンテーション
ボストン美術館訪問
インタビュー活動の準備</td><td>研修の内容を確認する。

翌日からのインタビュー活動に向けて、内容の確認や練習をする。</td></tr>
<tr><td>3日目</td><td>North Eastern University 訪問
/ MIT 訪問
現地の日本人学生との交流
インタビュー活動</td><td rowspan="6">現地の日本人学生から大学の志望理由や専攻、生活など様々な話を聞き、海外大学への理解を深める。

インタビュー活動をとおして、各大学の詳細や各自のテーマに対して見聞を広める。

インタビュー活動で分かったことを、現地の日本人学生に対して、プレゼンテーション形式で発表し、表現力の向上を図る。

研修の振り返りをして、帰国後の学校生活について決意を新たにする。</td></tr>
<tr><td>4日目</td><td>Tufts University 訪問
インタビュー活動</td></tr>
<tr><td>5日目</td><td>Brown University 訪問
現地の日本人学生との交流
インタビュー活動</td></tr>
<tr><td>6日目</td><td>Harvard University
現地の日本人学生との交流
インタビュー活動</td></tr>
<tr><td>7日目</td><td>Boston University 訪問
インタビュー活動
North Eastern University 訪問
プレゼンテーション
宿泊先で振り返り</td></tr>
<tr><td>8日目</td><td>ボストン国際空港より帰国</td><td></td></tr>
<tr><td>9日目</td><td>成田到着</td><td></td></tr>
</table>

ウ. グローバルリーダーとの対話

日本を飛び出し、世界の第一線で活躍する社会人をお招きした少人数でのフリートークです。高い志を持ち、海外で学び世界で働く経験を生の声でお聞きして、自分の世界を広げましょう。

〈これまでお招きした講演者〉

平成 24(2012)年度	株式会社 IGS 代表取締役	福原　正大　氏
	Teach for Japan 代表理事	松田　悠介　氏
	軽井沢インターナショナルスクール設立準備財団 代表理事	小林　りん　氏
平成 25(2013)年度	株式会社 IGS 代表取締役	福原　正大　氏
	MIT SLOAN	白川　寧々　氏
平成 26(2014)年度	株式会社ハバタク 代表取締役	長井　悠　　氏
	株式会社 a.school	岩田　拓真　氏
平成 27(2015)年度	ミネルバ大学　日本代表	山本　秀樹　氏
	タクトピア株式会社	島津　幸樹　氏
	トヨタ自動車株式会社	南　　光栄　氏
	株式会社サイバーエージェント	住田　康太　氏
	住友林業株式会社	飯塚　優子　氏
平成 28(2016)年度	タクトピア株式会社	島津　幸樹　氏
	日本郵船株式会社	鈴木　優　　氏
	株式会社サイバーエージェント	住田　康太　氏
	南魚沼市役所	渡辺さくら　氏
	ベネッセコーポレーション Route H	尾澤　章浩　氏
	東北大学	山本日向子　氏
	ユリーカ・ジャポン 代表取締役社長	長尾　俊介　氏
	タクトピア株式会社	嶋津　幸樹　氏
平成 29(2017)年度	タクトピア株式会社	白川　寧々　氏
	タクトピア株式会社	山本　実由　氏
	J Prep 斉藤塾 代表	斉藤　淳　　氏
	Education USA アドバイジングセンター	市川　敦子　氏
	株式会社サイバーエージェント	住田　康太　氏
	ユリーカ・ジャポン　代表取締役社長	長尾　俊介　氏
	Minerva Mozzo Inc. 代表取締役社長	藤乃巻龍之介氏
	日本郵船株式会社	鈴木　優　　氏
	トヨタ自動車株式会社	南　　光栄　氏
	リクルート株式会社	谷澤　悠実　氏
	海外留学生安全対策協議会　理事長	池野　健一　氏

(2)コース定員と選抜条件、初年度のコース関連行事日程

ア. コース定員と選抜条件

定員は10名程度とし、平成30年4月入学生から国際文化科からのみ入ることができます*[1]。コース選抜については、英語力の確認及び面接、保護者面談を行い、以下の観点で総合的に判断して決定します。なお、10名以上の希望者がいる場合には、GPA の観点を追加します。*[2]

①志望動機

②入学からの出席状況、学習・生活態度

③英語力（詳細は10ページ（4）求める生徒像 に記載しています）

*[1] ただし、コース希望生の人数が少ない場合は、2年生・3年生のGSが開講されないことがあります。

*[2] コース希望者は原則として、1年生の10月に実施するキャンパスツアーに参加することとします。

イ. 3年生 GS（グローバルスタディーズ）II 履修に関して

GSⅡは、原則として、以下の要件を満たす生徒のみコースの継続履修ができます。また、海外大学を志願しない場合でも、授業の一環として、出願用エッセイライティングを含め、CA（Common Application）を必ず作成することとします。

①海外大学を専願志望する（明確な志望理由を有する）

②GSⅠ履修開始時の成績（GPA、英語力）を下回っていない

ウ. 平成29（2017）年度の1年生のコース関連行事

月	日	学校行事等	コース行事
（3 月）	下旬	オリエンテーション	生徒向けコース説明会
4月	6 日（木）	入学式	（保）保護者向けコース概況説明*[1]
	23 日（日）	PTA・育成会総会	
5月	9 日（火）		GS Ⅰ授業見学
6 月	4 日（日）	英語検定受検	
	11 日（日）	海外大学説明会	（保）海外大学進学コース説明会
	13 日（火）	留学生との交流	留学フェローシップ　海外進学ワークショップ
	下旬	三者面談	（保）キャンパスツアー希望確認
7月	1日（土）		（保）キャンパスツアー説明会①
8月	21（月）～23（水）		キャンパスツアー事前指導
9月	2 日（土）		キャンパスツアー説明会②
	17日（日）		キャンパスツアー事前指導
10月	7日（土）～14 日（日）	キャンパスツアー	ボストンキャンパスツアー本番
	28 日（土）		海外大学進学講演会　大学検索ワークショップ参加
	下旬		事後カウンセリング　コース生希望確認
11月	下旬	三者面談	（保）コース生希望確認
12月	21日（木）		ボストンキャンパスツアー報告会
11月～1月	放課後・土日 等		コース生特別講座（英検等指導）
1月	21日（日）	英語検定受検	
	下旬	希望調査提出	コース最終希望調査・選抜・決定
2 月～3月	放課後・土日・補習期間 等		コース生特別講座（Bridge プログラム）

*[1] 「コース行事」欄の（保）は保護者に参加していただくものである。

(3)海外の大学を卒業した後の進路について

海外の大学を卒業した後の進路は主に2つあります。それは、大学院への進学と就職です。大学院は海外、日本のどちらを選択するかを決めます。また、就職についても海外と日本のどちらの企業にするかを選択して準備をして下さい。

「海外の大学に進学すると、就職は有利になるのですか」という質問をよく受けます。海外の大学に進学したからといって就職活動が楽になったり、優遇されたりすることではありません。「大企業に就職すれば生涯安定」という固定概念から脱する必要があります。

大事なことは、あなたが海外の大学で何を学び、何を得て、どのように成長を遂げたかということです。多様な価値観や文化に触れ、多様な学問を学び、その上で語学力を身につけていれば、企業はあなたのことを魅力的な人材と判断するでしょう。

海外の大学に進学したのだから、そのまま現地で就職したいと考える人も多いかもしれませんが、これは国によって事情が様々です。アメリカでは特別な活動実績やインターンシップでの成果が判断材料になります。インターンシップやボランティアに大学生のうちから積極的に参加し、自己をアピールしておきましょう。カナダの大学でも、プログラム内にインターンシップがすでに組み込まれているところが多く見られます。

日本国内の多くの企業が、留学経験者を対象とした就職説明会や試験を現在は実施しています。日本国内の企業であっても、外国人を積極的に採用したり、海外に進出して事業を展開したりするケースが増えているためです。国境を越えた思考を持つ「真の国際人」を企業は求めています。海外で積極的に学んだ経験はあなたのキャリアプランに大きな恵をもたらすでしょう。

3　卒業生の合格大学一覧

(1)1期生　平成28年(2016年)3月卒業

国	公･私	州*[1]	大学
アメリカ	公立	ユタ	Southern Utah University
			University of Utah
		ネバダ	**University of Nevada-Reno***[2]
		ミネソタ	University of Minnesota, Twin Cities
		ミネソタ	University of Minnesota, Morris
		ニューヨーク	**The State University of New York-Geneseo**
		オレゴン	University of Oregon
		オハイオ	Ohio University
		アイダホ	University of Idaho
		ミズーリ	Truman State University
			University of Missouri
		ネブラスカ	University of Nebraska
		ワシントン	The Evergreen State College
	私立	ワシントン	Gonzaga University
		インディアナ	**DePauw University**
			Earlham College
		ミネソタ	St. Lawrence University
		イリノイ	DePaul University
		モンタナ	Carroll College
		ミズーリ	**Webster University**

国	公･私	州	大学
カナダ	公立	ニューブランスウィッグ	Mount Allison University
		オンタリオ	Wilfrid Laurier University
			University of Ottawa
		ブリティッシュコロンビア	University of British Columbia, Okanagan
		アルバータ	**University of Calgary**
		プリンスエドワード島	University of Prince Edward Island
		ノバスコシア	Saint Mary's University
	コミカレ	ブリティッシュコロンビア	Fraser International College
	公立条件付き	オンタリオ	Carleton University

※1:州･大学名は順不同になっています。

※2:太字は実際に進学した大学です。

(2)2期生　平成 29 年(2017)年3月卒業

国	公・私	州*[1]	大学
アメリカ	公立	カリフォルニア	University of California, Davis
			California State University, Bakersfield
			University of California, Santa Barbara*[2]
		ミズーリ	University of Missouri: St. Louis
		メリーランド	**University of Maryland, Baltimore County**
		オハイオ	Bowling Green State University
		ペンシルベニア	Indiana University of Pennsylvania
	私立	マサチューセッツ	Emerson College
		ニューヨーク	Syracuse University
			Ithaca College
			Utica College
			Pace University
		ペンシルベニア	York College of Pennsylvania
		カリフォルニア	Chapman University
		ミシガン	Lawrence Technological University

国	公・私	州	大学
カナダ	公立*[2]	アルバータ	**University of Calgary**
	コミュニティカレッジ	ブリティッシュコロンビア	Camosum College

※1:州・大学名は順不同になっています。　※2:太字は実際に進学した大学です。

(3)3 期生平成30(2018)年3月卒業　(平成 30(2018)年 3 月 16 日現在)

国	公・私	州	大学
アメリカ	公立	ミズーリ	University of Missouri
	私立	バージニア	Mary Baldwin University
		ニューヨーク	Adelphi University
		ニューヨーク	St. John's University
		ミズーリ	Drury University
		インディアナ	Huntington University
		インディアナ	University of Indianapolis
		イリノイ	DePaul University

国	公・私	州	大学
オーストラリア	公立	首都特別地域	Australian National University College*[3]
		南オーストラリア	University of Adelaide College
		ニューサウスウェールズ	Macquarie University College
		ヴィクトリア	Deakin University College
	私立	クイーンズランド	Griffith University College
		南オーストラリア	Curtin University College

国	公・私	都市	大学
イギリス	公立	リバプール	University of Liverpool*[4]
		ロンドン	Queen Mary University of London
		ロンドン	Kingston University London
		ブリストル	University of the West of England

国	公・私	都市	大学
チェコ	公立	ブルノ	Masaryk University
		プラハ	Charles University

※3:オーストラリアでは、上位校に入学する留学生は、各大学附属のカレッジでファウンデーションコースを１年間程度履修してから学士課程（3 年間）へ進みます。また、ディプロマコースを１年間履修し、学士課程の 2 年生に編入して計 3 年間で学位を取得することも可能です。

※4:イギリスでは、留学生は１年間のファウンデーションコースを履修してから学士課程（3 年間）へ進みます。

4　卒業生からのレポート

(1)海外大学進学コース1期生 (22 期生)　　平成28 (2016) 年 3 月卒業

○高頭 穂香

大学名: Webster University 専攻予定: International Studies (国際学)/Cultural Anthropology (文化人類学)

【大学について】

私が通っているウェブスター大学は生徒数が約 3,000 人(大学院生を除く)と比較的小規模の大学です。そのため全体の 9 割のクラスが 20 人以下と少人数で構成されていて、似たような興味を持つ生徒とすぐに知り合えたり、教授と生徒との距離が非常に近かったり、教授からの一方的なレクチャーだけでなくクラス全体で作り上げるディスカッション形式の授業が多かったりと、なるべくたくさん人と関わっていきたい私にとっては最適な環境です。

大学を選んだ理由としては、2つ目の専攻予定の Cultural Anthropology を扱っているアメリカでも数少ない大学から選び抜いたということと、留学プログラムが充実しているという点です。ヨーロッパキャンパスが 4 校、アジアキャンパスが 2 校、アフリカキャンパスが 1 校の他にもたくさんの協定校が世界中にあり、アメリカとはまた違った文化の中で勉強できる魅力的なプログラムが決め手でした。

【勉強面について】

勉強量に関しては、英語力のハンデもあるため周りの子よりも勉強に費やす時間は自然と多く取らなければなりません。課題やレポートの量もかなり多く、時には図書館にこもりきりで勉強することも… とは言っても、せっかくの大学生活。思いきり楽しいこともしたい！なので時には友達と一緒に映画を見に行ったり、頻繁に開催されているキャンパスイベント(ハロウィンの仮装大会やダンスパーティーなど)に参加したりと学生時代でしかできないような日々も送っています。個人的には、机に向かって勉強している時よりも、意外と友達と会話をしている時や日常生活におけるちょっとした出来事が強く印象に残って学ぶことの方が多くて、自分の英語力を上げるためにも色んな人と関わってたくさん英語を使うように心がけています。

【アメリカ留学を通して感じること】

アメリカの大学に留学してまず一番に印象強く感じたことは、生徒が学びたいことを自由に学べる環境にあることと、生徒が自分自身のことをよく知っているということです。日本の大学とは違って大学入学前から専攻科目を決めるのではなく、大学に入って興味がある分野にどんどんチャレンジして、自分の本当の興味を突き止めることができます。大学の編入や、専攻を変更することも珍しいことではありません。自分のやりたいことはこれではない、と感じたら、また違う分野に挑戦していきます。常に「自分が本当にやりたい事」を考えながら学んでいるので、学びに対する意欲が高いように思います。自分はこうなんだ、と自信を持って話せる生徒も多いように思います。そんな生徒たちに囲まれて、とてもいい刺激を受けながら学ぶことができているので、改めて留学してよかったなと感じました。

【1年目 Spring Semester（春学期 2017 年 1 月~5 月）の授業】

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
SPAN 1090 9:00-9:50	SPAN 1090 9:00-9:50	SPAN 1090 9:00-9:50	SPAN 1090 9:00-9:50	
INTL 1500 10:00-10:50	RELG 1060 10:00-11:20	INTL 1500 10:00-10:50	RELG 1060 10:00-11:20	INTL 1500 10:00-10:50
ANTH 1100 12:00-12:50		ANTH 1100 12:00-12:50		ANTH 1100 12:00-12:50
HIST 2010 1:00-1:50		HIST 2010 1:00-1:50		HIST 2010 1:00-1:50
				MUSC 2500 2:15-3:15

RELG 1060: World Religion
SPAN 1090: Elementary level Spanish
ANTH 1100:
Introduction to Cultural Anthropology
INTL 1500: World Religion
HIST 2010:
History of Medieval Europe
MUSC 2500:
Applied Music（Trumpet lesson）

【メッセージ】

進路を考える上で1番大事なのは、自分が何に興味があるのか、本当に学びたいこと・やってみたいことは何かを知ること、自分を知ることなのではないかなと思います。「なりたい職業」を考え悩むのではなく、「自分の興味」を突き詰めることでその先が見えてくるはずです。一度きりの人生、自分の選択次第で、右にも左にも転向します。まずは自分をじっくり見つめなおして、自分にとってベストな選択をしてください。この体験談が少しでも参考になっていれば幸いです。頑張ってください！

左）入学時の新入生による"W"写真。学校の伝統です。

右）ハロウィン仮装大会にて

○倪 曄（二・イエ）

大学名:
University of Calgary
専攻予定:
Marketing（マーケティング）

【カルガリー大学での生活】

基本的には平日・土日関わらず、ほとんど寮で勉強しています。やらなきゃいけないことがたくさんあるので一つ一つこなしているうちに１日が終わってしまうことが多いです。 授業のスケジュールは自分で組み立てられるので、私はできるだけ朝遅めで平日一回はゆっくりできる時間を取れる日程にするようにしています。それは、落ち着いて自分が学んだことを振り返ったり予習したりする時間が欲しかったのと、休む時間が欲しかったからです。でも勉強だけが大学生活だけではありません。勉強を頑張った分、休日や授業終わりに友達と近くのモールでショッピングしたり、スタジアムでアメフトを観戦したり、大学で行なわれているイベントに参加したり、寮の共有スペースで語ったり、メンターのホームパーティーに行ったりとリフレッシュすることが多いです。頑張る時は頑張る、遊ぶ時は遊ぶ、遊ぶために頑張る、頑張ったから遊ぶ、などメリハリある生活が特徴的です。3 万人規模の大学なので人数は多いですが、日本人留学生は（交換留学生を除くと）2、3 人しかいないので英語をより上達させるためには最適な場だと感じています。大学内の施設やカフェでは学生向けにアルバイトを募集していて、働きながら勉強している留学生も多いです。

【学問的なことについて】

専攻はビジネスのマーケティングですが、4年間を通して他の学部の様々な授業をオプションとして取ることができ、そこで新たな興味を見つけることができます。どんな授業を取るかは人それぞれですが、ビジネスと他の授業を一緒に取ることによって、幅広い教養と多角的視点（ビジネスや日常生活において）を身につけることが目的です。例えば、今とっている心理学で学んだことがビジネスの消費者行動につながったり、点と点だったそれぞれの授業がつながって線になった時や日常生活に反映できた時、見える世界がまたさらに広がるので、一つ一つの授業がとても楽しいです。

1年生のうちはクラスの規模が比較的大きくて講義型の授業が多いですが、授業によっては1学期を通してグループで活動することもありました。前学期取ったビジネスの授業では、レゴを使って自分たちで新商品を作り、その後ターゲットとなる消費者を聞かされてから自分たちが作った商品をいかターゲットに合わせて宣伝するかプレゼンして競うという授業があったり、天気や去年の実績を元にしながら今年の市場を管理して、どのグループが一番利益を残せるか（なぜ利益を残せたのか）という授業があったり、と実際に自分が体験しながら学ぶことを軸とした授業でした。もちろん課題やテストも多くてつらいときもありますが（しかも一度にどっと来たり）、自分から学びに行っているので、達成感と充実感を味わうことができるし、確実に身についた自信にもつながります。

【1週間の授業（2017 年 Winter Semester）】

月	火	水	木	金
8:00~8:50 Psychology		8:00~8:50 Psychology		8:00~8:50 Psychology
9:00~9:50 Management Studies		9:00~9:50 Management Studies		9:00~9:50 Management Studies
12:00~12:50 Geology		12:00~12:50 Geology		10:00~10:50 Statistics(Lab)
2:00~2:50 Statistics(Lec)	2:00~3:15 Economics(Lec)	2:00~2:50 Statistics(Lec)	2:00~3:15 Economics(Lec)	12:00~12:50 Geology
			5:00~5:50 Economics(Tut)	2:00~2:50 Statistics(Lec)

【後輩たちへ】

自分の進路を決める時、何度も“自分の人生このままでいいのだろうか”と思いました。大学生になった今でも思う時があります。でも立ち止まってゆっくり考えたり、自分と向かい合ったりする時間はいつになってもどこにいても必要なこと。自分が歩む道をつくるのは自分自身だから。あの時、たくさん泣いてたくさん悩んでたくさんもがいたけど、その度自分と向かい合って、何が自分にとってベストで自分のためになるのか考えました。その日々があったからこそ今の自分がいる、と自信を持って言えます。何事も楽しいと感じている自分がいます。壁にぶち当たる日々もあるかもしれないけど、今周りにいる仲間を大切に、人とのつながりを大切に。たくさん悩んでたくさんもがいてたくさん自分と向かい合って、自分が歩みたい道をつくりあげてください。

○河田　実優

大学名:University of Nevada, Reno

専　攻:Art (Art History concentration)

【大学生活について】

UNR に来て 9 ヶ月が経ち、今は 3 つ目のセメスターです。勉強、生活ともにようやく慣れてきました。一番初めのサマーセメスターはキャンパスやアメリカ生活に慣れることに必死で、フォールセメスターでは勉強、課題、クラスに追われる毎日でした。そして今のスプリングセメスターでは、余裕ができた時間を使って課外活動に参加したりと新しいことにチャレンジしています。1 日のスケジュールとしては、朝は友達と新しくできたジムで運動をして、授業に出て、クラブのミーティングに出て、夜ご飯を友達と食べて、図書館で勉強をして、寮に帰り寝る、という生活を今送っています。週末は、友達とパーティーに行ったり、留学生の家に行って一緒にご飯を作ったり、友達と過ごすことが多いです。私の大学は総合大学なので学生数が多く、その分留学生の数も多いです。留学生に限らず、現地の学生も、白人、黒人、アジアンアメリカンなど、バックグラウンドが多様で、毎日新しい人に出会えるチャンスで溢れています。また、このセメスターからは、International Club の Vice President として、クラブの企画、管理、提案をしています。毎日 5 時間のミーティングがあり大変ですが、それ以上に自分たちのアイディアで一からクラブを作りあげていくことが楽しく、他のメンバーと一緒に毎日白熱したミーティングをしています。

ファイナルが始まる前に友達とライブへ

【勉強面について】

やはり初めの頃は勉強に費やす時間が多く、授業についていくために 1 日勉強することもありました。しかし、大学では自分の学びたいクラスを選んで勉強ができるので、長い勉強も課題もあまり苦に感じません。アメリカの大学で学んでいて感じることは、海外大学進学コースで英語を学んだ歴史や理科の内容が授業に出てくることが多く、高校で学んだことが生きているなと感じることです。また、クラスの名前は違っていても、別々のクラスで学んだことがつながっていることも多く、広い視野を持って学ぶことができていて嬉しいです。クラスメイトとテスト前には集まってわからないところを教えあったり、教授のオフィスに行って課題やテストの相談をしたりと、頼れるところは仲間や教授に助けてもらいながら毎日頑張っています。

【メッセージ】

海外大学というとまだ特別な人しか行けないんじゃないかと思われていて遠いイメージを持たれている気がします。しかし、自分が何を大学で学びたいのか、何をしたいのか、熱意とやる気があれば誰でも挑戦できる選択肢だと思います。海外大学進学も将来の選択肢のひとつです。ぜひ、広い視野を持って、後悔のない人生を送るため、自分の可能性を広げてほしいです。そのためにもまずは自己分析をして自分がどんな人間なのかを知ることが大切だと思います。そのプロセスを踏んでから、How、どんな道を進むのかを決めてほしいです。自分の将来を決めるのは自分自身です、夢は大きく持ち、可能性を広げ続けてください！

International Club のオフィサーミーティングの様子

1週間のスケジュール(Freshman, Spring semester)

Monday

9:00-10:50 Art History 261

1:00-2:15 World Regional Geography 200

2:30-3:45 Math 126 (lecture)

Tuesday

9:30-10:45 English 114

1:00-2:15 Women's Study 101

Wednesday

9:00-10:50 Art History 261

1:00-2:15 World Regional Geography 200

2:30-3:45 Math 126 (lecture)

Thursday

9:30-10:45 English 114

1:00-2:15 Women's Study 101

Friday

8:00-8:50 Math 126 (discussion)

9:00-10:50 Art History 261

リノの名物、Reno Hot Air Balloon Festival 2016

(2)海外大学進学コース2期生(23 期生)　　平成29(2017)年 3 月卒業

○横尾　光

教育学部の建物の裏側

大学名:University of Calgary
専　攻:International Foundation Program
　　その後 Physics

【大学生活について】

カルガリーは世界で 5 番目に住みやすい都市だそうです。地元からほとんど出ずに 18 年間暮らしていた身としては世界レベルで比較されてもピンと来ませんが、やたら乾燥していること、やたら寒いこと、同じ寮の寮生たちがやたらうるさいことを除けば、確かに住みやすいと思います。キャンパス内のブックストアや、歩いて 10 分ほどのところにあるスーパーマーケットなどで生活に必要なものはほとんど揃い、遠出したいときには学生証でバスに乗れます。食費が少し問題で、ミールプランで食事をすると 1日 2000 円弱かかってしまい、引き攣った頬が元に戻らなくなるかもしれません。私はスーパーでパンを買うなどして節約しています。留学生が非常に多く、全体で中国人が最も多くを占めているそうです。寮の同じフロアに住んでいる学生の中でカナダ人と思われるのはたった一人で、それ以外はインド、ギリシャ、イラン、クウェート、インドネシアやらモンゴルやら、世界中の人々が集まっているのではないかと思われるほどの国籍多様性ぶりです。私のルームメイトはエクアドル人で、始めの頃はスペイン語訛りが聞き取れずに苦労しました。皆とても親切で、人見知りの私でも問題なく集団生活ができています。ただ、私のフロアの人々は週末は朝 6 時まで騒ぐので、舌打ちしたのち耳栓をしないと眠れません。キャンパスはとても広く、初めの1ヶ月は授業へ行くたびに迷子になっていました。キャンパス内の建物はすべて渡り廊下や地下通路でつながっており、-30℃になるらしい冬に重宝しそうですが、その複雑な構造が私の迷子ライフに甚大な影響を与えています。

電車(無料)に 20 分ほど揺られると、アルバータ州最大の都市カルガリーのダウンタウンにも行けます。

【授業について】

TOEFL の点数が足りなかったために、留学生向けの英語コースを受けております。内容は海大進で行っていたこととほとんど変わらず、2 ページ程度の記事を読んで内容を確認したり、論文の書き方のレクチャーを受けたり、引用の仕方を学んだり、単語を憶えたりしています。海大進の授業の有用性を確認するとともに、あと 5 点をどうにかできなかったものかと悔やむ日々です。黒人差別を描いた小説を読んで話し合う活動では、出身国によっては非常に思うところのある学生もいて、迂闊な発言はできないなと思いつつ、様々な人種の人々の中で勉強することの意義を感じました。

英語コースの授業風景

クラスの中国人たち。異常に友好的。

1週間の授業

【1 年 Fall Semester】

	月	火	水	木	金
9:00-11:00	文法・書き	文法・書き	文法・書き	文法・書き	お
11:00-12:00	リーディング	リーディング	リーディング	リーディング	や
12:00-13:00	リス・スピ	リス・スピ	リス・スピ	リス・スピ	す
それ以降	な	っ	し	ん	ぐみ。
					とても楽です

【後輩たちへのメッセージ】

海外留学というのは一風変わった事に見えるかもしれませんが、カルガリー大学から見るとそれほど異常な選択肢ではありません。英語コースでは右を見れば中国人、左を見ても中国人、前にも後ろにも見渡す限り留学生というか中国人がいます。彼らは「留学したいからカナダに来た」というより「勉強したいから留学している」という考え方で、しっかりとした目的意識の上で当然の結果として留学に行き着いたようです。皆様も、「大学生活、国立行くか？ 留学するか？」という考えではなく、自分のしたいことをよく考えて、その上で海外の大学も含めて行き先を決めていただければと思います。どの選択肢も、異常な選択肢ではありません。ちなみに大学敷地内に無料映画館とかありませんので、悪しからず。

○信田絵里香

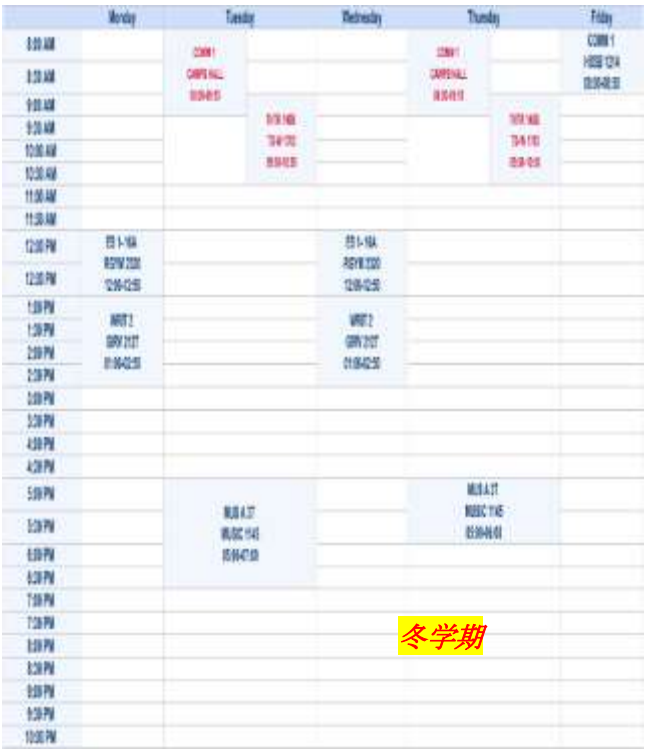
大学名:University of California, Santa Barbara
専　攻:Communication

【カリフォルニア大学での生活について】

サンタバーバラは、とにかく景色が綺麗です。大学が半島のようなので、毎朝海から太陽が昇り 、海に沈む夕日も眺めることができます。寮から徒歩5分で海なので、勉強の合間にいつでも海に行けちゃいます。無料バスでショッピング街へ行けたり、動物園やスケートリンクがあったり、大学内で常に何かしらのイベントがあるので息抜きに困らない大学です。天気も良く、ほぼ毎日青空の中歩くことができます。また、カリフォルニアってこともあり、日系人がとても多いです。中には日本語が喋れる人もいるし、日本にものすごく興味を持ってくれる人も多いです。しかし、今の所、日本の高校を卒業して、1年生からこの学校に通っている人は一人も見つけられていません…。コミュカレ経由、交換留学、アメリカの高校卒業生の日本人はすぐ見つけられるのですが…。本当に私しかいないのか、引き続き探していきたいと思います！

【学問について】

最初の1学期は心理学と地理と、哲学（クリティカルシンキング）の3教科をとりました。早起きをした方が １日が長く感じられるので、8時のクラスの選択ができた場合はそうして、午後は自分の時間が設けられるようにしました。でもやはりアカデミックな単語にとても苦しみました。卒業してからの半年、自分が取るであろう科目の単語を勉強しておけばよかったなと思います。でも心理学で学んだことが哲学で出てきたり、友達と授業で学んだことについて話し合えたり、自分はちゃんと学べているんだって実感できることが多かったです。 そして、なんと言っても来学期がとても楽しみです。いよいよ自分の専攻の授業や、演じながら 周りの学校の子供達にシェイクスピアのお話を教えるという授業など、やりたかったことができる1学期になると思います！



【授業外での校内活動】

大学では授業以外に沢山のグループに所属することが可能です。私は今学期、4つの団体と関わりを持ちました。International Student Association, Japanese Student Association, Japanese Language Cafe, Nikkei Student Union です。とにかく他の留学生や日本人のコネクションが作りたくて、ミーティングに参加しました。最初の2つはボードメンバーにもなり、実際に企画や運営にも携わりました。他にも大学で開かれるオープンマイクナイトに友達とウクレレで参加したり、大学のパフォーマンス系のグループの発表を見に行ったりと、エンターテインメントも欠かせない1学期となりました！参加型イベントにはよく"FREE PIZZA"などとあります。様々なイベントに参加すると同時に自分のお腹にも気を付けなければいけない1学期でもありました（笑）。会ったときには「あれ？太った？」ときかないでください!! 来学期には、大学内の無料塾みたいなところで日本語の先生になるか、留学生のオフィスで働くかのお仕事をしようかなと考えています。受かったら、ですけど!!

【出会えた人たちについて】

周りの人にすごく恵まれた1学期でした。まず、Nikkei Student Union では、ビッグ＆リトルと、ファミリーというシステムがあり、 上級生（ビッグ）と下級生（リトル）がペアになり、数ペアがまとまってファミリーになり、一緒に勉強したり語ったり遊んだり、時にはファミリー同士で対戦したり。本当に家族のような存在と出会えることができました。また、最近どう？とメールをわざわざくださるほど素敵な日本語の教授さんとお会いできたり、来学期の私のメジャーの必須科目と自分の演劇の授業時間 が被っているのに、授業を受けさせてくださる演劇の教授さんにお会いできたりしました。 たまたま大学のページで中古の自転車を譲ってくださった方も、大学のハウジングで働いており、私がルームメイトに苦しんでいるのを聞いて部屋を変える手伝いをしてくれたり、来年住むところを探すのを手伝ってくれたり、自分の家族とのご飯に誘ってくれたり、本当に素晴らしく優しい方と知り合うことができました。

【後輩へのメッセージ】

上に書いたことだけを見ると楽しそうに思えると思います。実際に幸せで楽しい時間がたくさんありました。ですがこの1学期はいろんな意味で正直、今までで1番辛い時期でした。でもそういう時は、辛いんだってはっきり誰かにいうことで乗り越えることができました。みんなに頼る必要はなくて、誰でもいいから話を聞いてくれる人を見つけること。そして頼ること。誰かが手を伸ばしてくれます。一人じゃないんだって気付かされます。自分で選んだこの道は、最初は慣れなくて当たり前、大変で当たり前。私はよく耐えられなくなったら親にビデオ通話をして愛犬を見せてもらい、モチベーションを上げました！皆さんもきっと大学選びや受験で悩み事があるかなと思います。たまに自分が何やっているかわからなくなることも。私も実際、本当にここでよかったのかとか、もっと小さい大学の方が良かったとか、もっと勉強して上の大学行けたら良かったとか、なんでこんなわからないだろうとか、考えました。でもやっぱり、この短時間で出会えた方々や学べたことを思うと、これからも頑張って行こうと思えます！ そりゃあ、最初の1学期は言語の壁や文化の違いや学問的なことにおいても大変です。でもそれは周りをよく見ると留学生だけじゃないんです。ネイティブの人もみんな最初の1年は辛いんです。だからこそみんなでお互いを支えあうことで強い絆が生まれます。（どこかの高校みたいですね）皆さんも、大変な時あったら誰かに手を伸ばしてくださいね！海大進のみんなら私の連絡先持っていますよね！！何かあったらいつでも声かけてください！

Message from David Sheppard, the ALT at KJ (2015/07/26 ~)

5　FAQ（よく聞かれる質問）

(1) 留学全般に関わる質問

①年間の海外大学進学者はどのくらいなのでしょうか？

日本学生支援機構の調査によれば、2016年に海外の大学に留学した生徒は 60,643 人（前年は 54,455 人）で、留学先の国は上位からアメリカ約 13,000 人、オーストラリア約 6,200 人、カナダ約 5,800 人、韓国約 4,600 人とされています。現在、企業はグローバル人材を求めて留学生の採用枠を増やしており、政府が立ち上げた「グローバル人材育成推進会議」では今後10年で高校生・大学生の10人に1人を最低1年間海外に留学させることが提言されました。これを受けて、海外大学を目指す学生の数は急増しており、今後この傾向は一層加速していくと予想されています。

②高校生が海外大学へ進学するメリットは何ですか？

海外の大学で学ぶ一番のメリットは、さまざまな国籍の学生が集う環境で学び、多様な価値観に触れることで、複眼的な視点で世界や日本について考えられるようになる点にあります。グローバル化が一層進むこれからの社会では、世界の多様な価値観と折り合いをつけて、人生における目標を達成していく必要が生じます。海外の4年制大学はそのほとんどが大学の敷地内に寮を持ち、世界中から集まった学生たちがそこで寝食をともにします。その結果、日本の政治、経済、文化的環境で育った私たちとは異なる価値観で成り立っている社会の存在を常に意識できるようになります。企業は、英語力はもちろんですが、さまざまな価値観が共存する環境で職務を全うできる人材を求めています。

③アメリカ以外の大学進学も可能ですか？

22 期生（平成 28 年 3 月卒業生）、23 期生（平成 29 年 3 月卒業生）はアメリカとカナダの大学に出願、合格、進学しています。しかし、イギリス、アジア・ヨーロッパ諸国、オーストラリア、ニュージーランド等、それぞれの国や地域が特徴的な大学教育を行なっています。海外大学進学コースでは、コース生の目標や適性に応じて多様な進路選択ができるように、サポートしています。現在出願の始まった 24 期生（平成 30 年 3 月卒業生）はオーストラリアやイギリス、チェコの大学にも合格しています。

④卒業時期が日本と異なるために就職活動に困りませんか？

海外の4年制大学を卒業して帰国しても大卒扱いとして認められないことが以前ありましたが、現在、日本の一流企業が留学生の採用枠を設けるなど、積極的に留学経験のある学生を採用する動きが出てきています。これを受けて、日本の大手人材サービス会社も留学生の採用に関するサービスを始めています。会場も日本だけではなく、ボストン、ロサンゼルス、シドニーで日本人留学生対象の就職活動イベントが行なわれています。これらに参加することで、夏に卒業しても秋から中途採用として働くことや、次年度の春から新卒採用として働くことができる機会が増えてきています。下記に、留学生の就職支援に関するHPアドレスを記載しましたので、参考にしてください。

・留学生のためのリクナビ就職エージェント https://job.rikunabi.com/agent/kaigai/

・マイナビ国際派就職 EXPO　https://global.mynavi.jp/conts/event/

・キャリアフォーラム.NET　https://www.careerforum.net/ja/event/

アメリカ国内での就職に関しては、アメリカ人にはない知識・技術・能力を持ち、それに見合った求職がある場合、もしくは高度な専門性を有する条件で雇用があり、その条件を満たす場合に限り就職が可能

となります。優秀な学生はインターンシップで実力を認められて採用されるケースがありますが、就労ビザの期限（最長6年）の問題があります。将来的にアメリカを含む海外で就職を考えた場合、まずは日本の外資系企業に就職してその後の展開を考えるのが良いでしょう。

⑤入学時期が日本と異なることで不都合は起きませんか？

入学時期が異なることによる問題は特に生じないと考えています。海外の多くの大学は9月入学ですので、進学する生徒は学習環境に慣れるために夏前に渡米し、必要に応じて大学の留学生向け語学プログラムや大学付属の語学学校で学びます。2006 年に、留学生向けの英語試験 TOEFL の内容に大きな変更があり、英語によるコミュニケーション能力を評価する問題が多く出題されるようになりました。この試験に向けた学習を行なうことで、留学生が現地の生活や大学での学習に適応するために必要な時間が大幅に短縮されました。その結果、併願して合格した国内大学に4月から通い、9月に休学手続きをして海外大学に入学する例も増えてきています。

⑥国内大学との併願は可能ですか？

可能ですが、日程的に非常に厳しくなります。そのため3年生の4月までに、気持ちのウェートをどちらかに決めておく必要があります。つまり、「どちらも合格したらどちらにするつもりか」を決めておかないといけません。　理由は、国内向けのセンター試験の学習と海外向けのエッセイ出願を行う時期が重なるからです。どちらも5:5で学習・準備をすると、時間的にかなり厳しくなります。

国公立であれば大学入試センター試験と大学個別の2次試験との総合得点で合否が決まります。それに比べて、海外大学は書類審査です。アメリカ大学の場合、個人情報を詳細に記入する入学願書、高校の成績、推薦状、TOEFL（英語力）テストのスコア、エッセイを提出し、大学は人物を総合的に評価します。大学の入試課は審査を専門に行なう組織を持ち、合否判定は慎重に行われます。選考に際しては成績が良いだけではなく、生徒の志望動機と大学の教育内容が適合していることや、生徒の大学への貢献度も考慮されます。出願に際しては、アメリカ大学の一般受験は12月頃からが出願時期となります。従って春から夏にかけて必要な書類の準備を終わらせて、その後国内大学を受験するのが一般的なプランです。アメリカ大学の合否結果は3月に発表されますので、国内、海外全大学の受験結果を待って入学先を決めることができます。早期出願は10月末～11月に出願し12月に合否結果が通知されます。

⑦海外大学は何校併願できますか？

基本的に併願についての制約はありませんので、時間が許す限り何校でも出願できます。アメリカでは、出願に必要な願書がコモンアプリケーション（共通願書）の場合は、エッセイの課題が志望動機や将来の目標のような一般的な内容となりますので、一度書いたものを少し手直しすれば複数の大学に使えるようになっています。しかし、難関大学はエッセイに独自の問題を課す場合が多く、かつ問われる内容が非常に個性的であるため、準備に多くの時間を割かなくてはなりません。また、カナダなどでは、州ごとに共通願書があったり、エッセイが全くない大学もあります。

(2) 費用に関する質問

①海外大学進学コースの3年間にかかる費用はどのくらいですか。

通常の国際文化科の費用に加えて、3年間でおおよそ以下の費用がかかります。

・キャンパスツアー（1年10月）	約40万円
・TOEFL iBT 受験費用（約5回）	約10万円
・SAT、ACT 受験費用（東京受験）（約3回）	約 3万円
・受験移動・宿泊費用	約10万円
・教材費	約10万円

②留学の年間費用はどのくらいですか？

アメリカの大学は、難関大学ほど授業料が高くなる傾向があります。ハーバード大学に代表されるアイビーリーグやリベラルアーツカレッジでは年間約4万5千ドル～5万5千ドル（約430万～520万円）、州立大学は平均年間約2万5千ドル～3万ドル（約240万円～285万円）といわれています。それに加えて、生活費が年間約100万円程度かかります。一方、2年制大学のコミュニティカレッジは年間50万円～60万円です。コミュニティカレッジから4年制大学に編入した場合、4年間の総額は1,000万円程度で、首都圏の私立大学にかかる費用とほぼ同等です。また、カナダはアメリカよりも授業料が安い傾向があります。

③アメリカの大学の受験料や合格時の入学金等の受験経費はどのくらいかかりますか？

受験料は、書類送付時に申請料として1校につき25～100ドル必要で、払い込み後には返金されません。アメリカの大学では合格時に登録費用として100ドル～200ドル程度が発生する場合はありますが基本的に入学金を支払う必要はありません。ただし、合格通知が届いてから、支払い能力証明書の提出が求められます。その際に授業料を納めることができる証明として、授業料、生活費、その他諸経費を含む1学年間（夏学期／夏季休暇中の費用を含めない9か月分）の預金通帳残高を添付する必要があります。

④奨学金制度にはどのようなものがありますか？

アメリカでは大学奨学金（Grant/Scholarship）は給付制で返済の義務はありません。返済義務があるものは学資ローン（Sallie Mae）として区別されています。アメリカ政府ならびに州の奨学金はアメリカ国民のためのものなので、申請できません。大学から給付される奨学金制度は大変複雑で、種類や適用される対象も大学によってさまざまですので個別に調べる必要があります。一般的に日本人留学生が申請した場合は入学後2年目以降に成績優秀な学生に支給されるため、1年目から大学の奨学金を得るのは難しいとされています。また、日本国内にもアメリカ大学の奨学金制度がありますが、リベラルアーツ大学のみを対象にしています。国内の留学生向け奨学金には、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度があります。給付型は上限はあるものの生活費と授業料のほとんどが賄える額が支給されます。また貸与型には第一種（利息無し）と第二種（利息がつく）奨学金があります。第二種は、大学側から直接ローンを借り入れるよりも利率が低い場合が多く、最大月額12万円で4年間借り入れが可能です。

・日本学生支援機構（JASSO）http://www.jasso.go.jp/

(3) 英語力についての質問

①海外大学進学に必要な英語力は具体的にはどのくらいですか。

英語圏の4年制大学への進学を目指す場合、TOEFLiBT で80点を取ることが一つの目安になります。東京大学に合格する高校3年生の平均得点が60点ですので、非常に高い英語力が必要となります。本校では1年生のコース決定後から TOEFL 対策を始めて、2年生の冬で60点、3年生の春～夏に80点を目指します。またハーバード大学のようなアメリカのトップ大学は100点以上が必要となります。TOEFLiBTは、英語圏の大学生活を想定して問題作成されていますので、スコアを伸ばすことが進学に必要な英語力にそのままつながります。

実際に英語圏の大学に進学すると、日々の課題の多さに驚きます。授業形式も日本とは異なり、討論形式のクラスがあるので、一晩で数十ページの英語論文を読み、自分の意見をまとめた上で授業に臨む必要があります。また、論文を読むだけでなく、そこで述べられている結論に対する教授の見解を聞いた上で、エッセイを提出することが求められます。

(4) コースに関する質問

①コース定員は何人でしょうか？

指導や教員配置の都合上、コースの定員は 10 名程度です。

②コースは国際文化科からしか入れませんか？

平成 30 年 4 月入学生からは、国際文化科からのみ入ることができます。

③コースはいつから募集しますか？

コース募集は、4月より開始し、説明会やアンケート、個人面談、保護者面談、英語力の確認を行い、7月に仮決定を行います。その後、コース希望者を中心としたキャンパスツアーを経て、11月の三者面談、1 月の英検結果などを総合的に判断し、2 月に決定します。

④希望者が多い場合はどうなりますか？

希望者が10名を大幅に超える場合は、選抜を行います。志望動機や英語力の確認、及び面接、保護者面談を行い、以下の観点で総合的に判断して決定します。

- 基本的生活・学習習慣が身についており、自分の行動・学習に責任が持てるか
- スポーツ、芸術、ボランティア活動に熱心に打ち込み、今後も続ける意欲があるか
- 実用英語技能検定2級程度の英語力を有するか

⑤学校設定科目グローバルスタディーズ（GS）Ⅰ、Ⅱでは何を学ぶのですか？

グローバルスタディーズでは、英語力だけでなく論理的思考力と課題発見、解決能力を育成します。そのための手立てとして2年生のGSⅠでは、英語ディベート演習とアクションプラン（自ら設定した課題解決案）を実行します。3年生のGSⅡでは、アクションプランを振り返り、それを英語のエッセイにまとめ、将来の目標を明確にして志望大学・学部を絞り込みます。

6　海外大学の特徴（アメリカ）

海外の大学制度は、日本の大学制度とは異なります。ここでは、アメリカを中心として、取得できる大学の学位や教育機関の種類の違い、重要な用語や考え方について紹介します。

2年制大学 1,700校以上	・コミュニティ・カレッジ ・卒業後に4年制大学へ編入 ・準学士号（日本の短期大学卒業に相当）
4年制大学 2,800校以上	・総合大学 ・リベラルアーツ（教養教育）大学 ・学士号（日本の大学卒業に相当）
大学院 2,600校以上	・専門職系・学術系大学院 ・修士号・博士号

＜大学の種類＞

アメリカで学位を授与する教育機関の名称には、カレッジ（college）、総合大学（university）、専門大学（institute）があります。どれが最も優れているかということはなく、それぞれに特徴があります。一般的に、カレッジは規模が小さい傾向にあります。専門大学は通常、1 つの密接に関連した科目分野群のプログラムを学びます。こうした専門大学には、工科大学やファッション専門大学、芸術・デザイン大学などがあります。それぞれのカレッジや総合大学の中に、教養学部やビジネススクールなどの学部（schools）があります。カナダもまた似たようなシステムを取り入れており、イギリスの場合はほとんどが 1年目から専門性の高い大学になります。

＜リベラルアーツ（一般教養）とは＞

アメリカの大学教育は「リベラルアーツ（一般教養）」という概念に基づいており、学生のコミュニケーション力、文章表現力、論理的思考力等を発達させる包括的な学問教育を行うことを目指しています。リベラルアーツ・カレッジや一般教養プログラムに重点を置く総合大学の学生は、芸術、人文科学、語学、社会科学、自然科学等の多様な科目の講義を自分で選び、受講します。その後、自分が専門にする分野（「専攻」と呼ばれる）を選び、自分が学ぶ講座の約25～50％を専攻分野から履修します。一般教養プログラムをとらずに、例えば工学などの専門分野を専攻する計画の学生も、講義の約25％を人文科学と社会科学からとる必要があります。同様に、歴史学を専攻したい学生も、数学や科学の分野からいくつか講座を受講する必要があります。

＜専門教育＞

アメリカの大学制度の中には、専門教育が含まれています。大規模な総合大学は、教養学部（a college of arts and sciences）と、ビジネス、農業、医学、法律、ジャーナリズム、公共政策、科学技術、国際問題などの専門分野を中心に学ぶいくつかの学部（professional schools）で構成される場合が多いです。

＜州立大学＞

州立大学は、その州の住民に安い費用で教育を提供できるように、アメリカの州政府（例えば、カリフォルニア、テキサスなど）が創立し補助金を出している大学です（新潟県で言うと新潟県立大学のようなものです）。私立大学と区別するために、公立大学と呼ばれることもあります。州立大学の一部は、大学名に「州立大学」という言葉を入れたり、地域的要素を盛り込んだりしています（例えば、東カロライナ大学、西コネチカット州立大学など）。州立大学は規模が非常に大きい傾向があり、2万人を越える学生が在籍し、一般的に私立大学より幅広い層の学生を受け入れています。州立大学の授業料は、一般的に私立大学より安くなっています。また、州内の居住者（その州に住み税金を納めている人）の授業料は、州外から来た人よりもかなり低くなっています。留学生は、他州から来た学生同様、州外の居住者と見なされますので、州立学校での授業料減額の恩恵は受けられません。さらに留学生は、州内の居住者よりも高い水準の入学要件を満たす必要がある場合もあります。

＜私立大学＞

私立大学の授業料は一般的に州立大学より高く、金額は州内の居住者も留学生も同じです。宗教系の大学および男子もしくは女子だけの大学は私立です。私立大学の在籍学生数は、総合大学の場合で2万人未満が一般的で、カレッジの中には2千人以下というところもあります。

＜コミュニティ・カレッジ＞

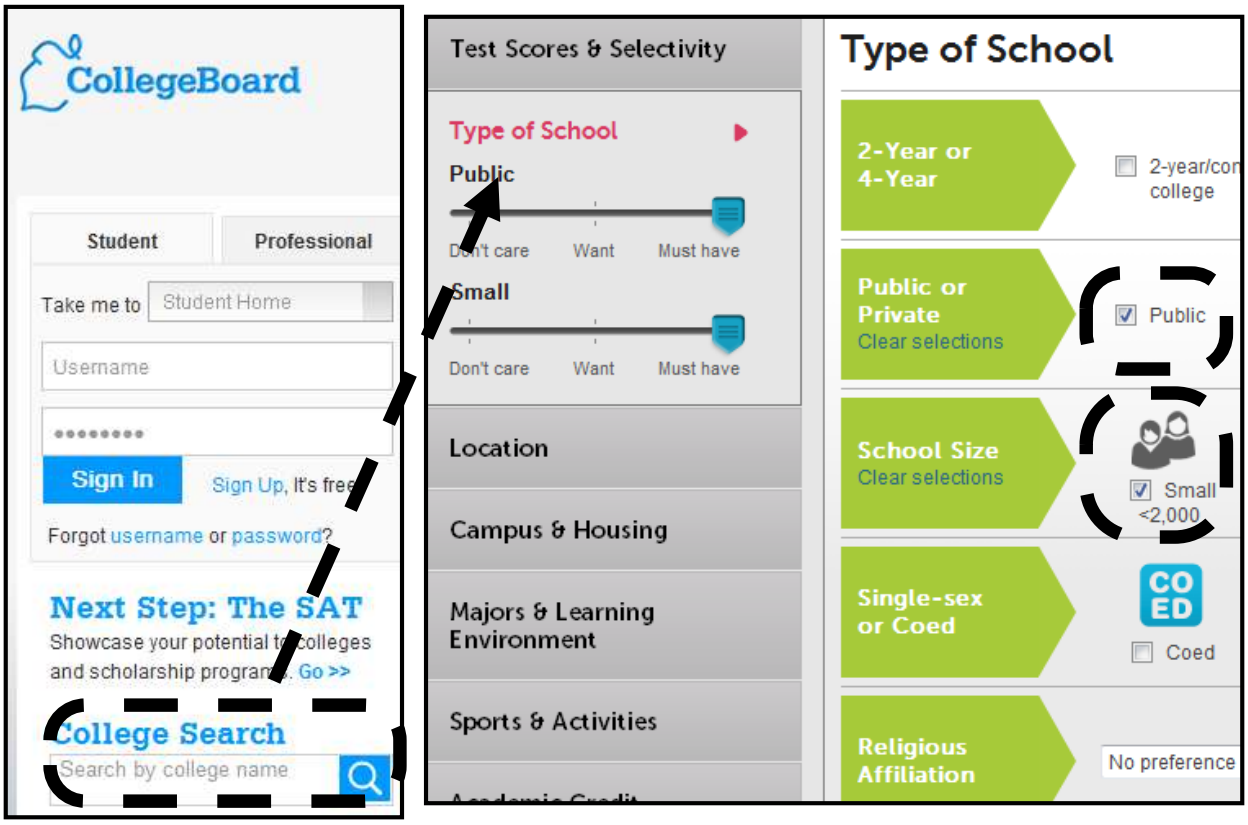
名前が示すように、コミュニティ・カレッジは地域社会に根付いた学校で、中等教育の学校、地域のグループや企業と密接なつながりをもっており、コミュニティ・カレッジで学ぶ学生の多くは地元の学生で、キャンパスの近くで家族と一緒に暮らしています。コミュニティ・カレッジには公立も私立もあり、短期大学または2年制大学と呼ばれることもあります。授業料は大抵2年制大学の方が4年制より安いことが一般的で、多くのコミュニティ・カレッジは、編入プログラムを選択している学生が地元の州立大学の学士号プログラムに3年生として簡単に編入できるような取り決めをしています。また、日本の短期大学のイメージとは異なり、コミュニティ・カレッジに入学してから卒業時に4年生の大学に編入するという学生が実際は多く存在します。

(1)　海外の大学を選ぶには

日本で生活をしながら海外の大学を選ぶということは大変なことです。しかし、丁寧に計画を立て、十分に下調べをすることで、自分の希望に合った大学の候補を数校に絞り込むことができます。一人一人求めているものは違うので、まずは何が自分にとって重要かをじっくりと考えることが大事です。教員との面談や自分での検索作業をとおして、大学を10～20校ほどに絞り込むことが必要になります。どのような学問、生活、そしてその他の要素を考慮すべきかを自分自身で考えます。高校２年生の後半～3 年生の前半頃から留学先についてよく考えて、調べ始めるとよいでしょう。

＜専攻＞

専攻とは、自分が専門に勉強しようと思う分野です。専攻しようと思う分野が、大学入学時に明確になっていないことがあるかもしれません。しかし、海外の大学で学ぶという明確な目標があるのなら、自分が学びたい分野と、その分野を学ぶことができる大学を特定する必要があります。テーマの中には、多くの大学で教えているものがあります。興味のある分野の範囲内に特定の専門科目があれば（例えば、アジアの歴史、環境地理学、原子物理などに関心があるとすれば）、どの大学がその専門科目を教えているかを調べることで、志望校を絞ることができるでしょう。アメリカの大学要覧のほとんどは、一般的に教えられている専攻分野別に大学を掲載しています。インターネットで利用できる学校検索エンジンも、志望校を絞り込む上で役立ちます。大学案内等を利用して、自分が興味を持つ分野が学べるかどうか、また自分の興味に焦点が合ったプログラムがあるのかどうかを調べましょう。



＜大学の方向性＞

大学がカリキュラム等でどのような点を重視しているかも注意してみましょう。重視しているのは専門教育か、それとも一般教養か。キャンパスの大半は学部生なのか、それとも大学院生なのか。多くの一般教養中心のカレッジは、研究よりも教育や教授と学生との交流などを重視しているようです。その

場合、教師1人あたりの担当する学生の人数はかなり少数になります。研究中心の大学の中には大学院生が大半を占めるところもありますが、そのような大学の施設は時代の先端を行くものであることが多く、世界的に有名な教授陣がいます。

＜入学要件＞

同じ国内や他の国同士でも大学制度はとても幅が広いため、入学要件もかなり違います。非常に競争率の高い私立の総合大学やリベラルアーツ・カレッジだと、非常に多くの出願者の中から、ほんのわずかしか入学が認められません。これに対して、他の大学では、入学基準に達している出願者を全て受け入れる大学もあるようです。大多数の大学要覧や大学案内は、前年度の出願者数と入学許可数に加え、前年度に入学を許可された学生の SAT 平均点、ACT 平均点と GPA 平均点を掲載しています。しかし、入試担当者は、小論文、受賞歴、地域ボランティア活動、職務経験、趣味、特別な能力などさまざまな要因を考慮しながら、その学校で活躍できる能力があるかどうかを見極めようとしています。願書等の提出書類は、かなり重要視されています。

＜教師に対する学生の比率＞

大規模な総合大学では、通常、大学1、2年生のクラスの人数が多く、教授の代わりに大学院生に教えてもらうことも多いです。大学院生の数が少ないカレッジでは、教授に教えてもらう可能性が高くなりますが、その分、より積極的に学ぶ姿勢が求められます。教師に対する学生の比率が高いということは、クラスの規模が大きく、指導教授が個々の学生に手厚く面倒をみることが難しいということを意味します。

＜費用＞

学費の検討は非常に重要なことです。出願前に、自分が現実的にどのくらい支払うことができるのかを把握しておくことが大切です。大学案内に掲載されている費用の内訳を注意深く見て、4年間の部屋代（アパート、寮、ホームステイ）、食費、授業料、納付金、交通費、その他の費用を、計算しておきましょう。また、毎年多くの大学が授業料を変更します。授業料増額の可能性についても考えておく必要があります。複数の大学について、保護者と一緒に費用についての計画を必ず比較するようにしましょう。

1年間の平均留学経費	公立大学	私立大学
授業料、大学諸経費	＄22,000	＄29,000
部屋代、食費	＄9,200	＄10,500
教科書、文具代	＄1,200	＄1,300
交通費	＄1,100	＄1,000
雑費	＄2,100	＄1,500
合計	**＄34,600**	**＄43,300**

＜学費の工面＞

大学への入学願書を準備し提出する前に、学資とその工面方法を計画することが重要です。大学は通常、出願手続きの一環として、財政能力証明書と保証を要求します。加えて、学生ビザ申請には学費を全部払うことができるという証明が必要です。

＜授業料と納付金＞

授業料は指導・授業にかかる費用で、納付金は図書館や、学生活動、医療センターなどのサービスにかかるものです。留学生は、授業料と納付金の両方を払わなければなりません。一部の大学は、この他に、全学生に義務付けている健康保険の保険料も請求してきます。授業料と納付金は学校によって大きな違いがありますが、授業料と納付金の水準と学校の質との間には、何の相関関係もありません。一般的に、授業料や納付金は私立大学の方が州立大学より高くなります。コミュニティ・カレッジや、技術・職業教育を行うカレッジは、大学全体の中で納付金が最も低額になっています。州立大学は、留学生や州外居住者には州内居住者より高い授業料を負担させます。州立大学に通う留学生は州外居住者向けのより高額な授業料を支払わなければなりません。また授業料や納付金が一番安い大学が生活費も一番安いというわけではありません。年間費用をより正確に見積もるには、授業料と納付金、および生活費の双方を調べることが大切です。授業料や納付金は大学によって異なり、また毎年平均数％上昇するので、最新の金額は、最新の大学要覧、ウェブサイト閲覧できる参考資料で確認することが必要です。出願時には必ず最新の金額を大学に確認しましょう。

＜生活費＞

生活費には大きな幅があり、個人の生活スタイルにも左右されます。生活費は、大都市、カリフォルニア州と北東部で最も高く、南部や中西部、その他の地域では低い場合があります。最新の生活費を知るには、大学案内やウェブサイトを見ましょう。通常、生活費総額のほかに家賃、食費、書籍代、医療保険、個人的支出など、おおよその内訳も載っています。基本的な生活費には食費と住居費が含まれるのはもちろんですが、以下の項目も忘れずに計算に入れましょう。

書籍および学用品:

各大学は学年度ごとに書籍および学用品代の概算を公表しています。学生は教科書を自分で購入しなければならず、極めて高額な書籍もあります。ほとんどの大学はキャンパス構内に書店があり、その多くでは、中古の教科書を安価で購入できる場合もあります。工学や美術、建築など特殊な物品を必要とする分野を専攻する場合は、出費が平均より高くなることが多いでしょう。

交通費:

大学が公表している生活費には、日本からの渡航費は含まれていません。年間の予算に大学からの帰国費用を含めるのを忘れないようにしましょう。大学の外に住み通学する場合は、大学までの交通費を追加しましょう。コミューターカレッジ（学生の多くがキャンパス外に住み通学している大学）は、生活費に占める交通費の概算を公表しています。

その他の支出:

個人的支出には、生活必需品、衣類、サービスなどの費用が含まれます。健康保険は加入が義務付けられています。

＜学資を工面する＞

遅くとも高校３年には学資計画を立て始めることが必要です。学資計画には次のものが含まれます（詳しくは後述）。

- 出願書類をそろえる
- 自分が応募できる奨学金・財政援助を特定する
- 自己資金を見積もる
- 教育経費を抑える

＜自己資金を見積もる＞

保護者や場合によっては親族と相談して、自分の教育のために毎年いくら出してもらえるのか確かめてください。家族からはできるだけ多くの資金を出してもらうようにしてください。というのは、ほとんどの奨学金は、獲得できたとしても、学費と生活費の合計額の一部しか賄えず、しかも 1 年目の留学生には与えられない場合があるからです。

＜財政援助先を見つける＞

留学生向けの各種奨学金と財政援助はどれも非常に競争が厳しく、優秀な学業成績が必要です。しばしば「奨学金」と「財政援助」という言葉が互換性のあるものとして使われているのをよく見聞きするかもしれませんが、厳密に言えば、奨学金とは、飛び抜けた学業成績、スポーツや芸能の特殊な才能、さらに地域ボランティア活動や地域社会での高い指導力なども入るでしょうが、そうした実績に基づく報奨金です。財政援助は、家族の収入、資産、その他の要素の証明書に基づく学生の財政的必要性に応じて支給される「必要に基づく」補助金です。以下は、アメリカで勉強したい外国人学生が応募できる財政援助の主な種類です。

日本国内からの資金提供:

自治体、企業、財団などが財政援助をしていないか調べてみましょう。こうした資金源が必ず見つかるわけではありませんが、地元の組織・団体からの奨学金があれば、教育経費を減らせる可能性があります。

・日本学生支援機構（JASSO）では留学生向けに「海外留学支援制度（給付型）」が開設され、生活費や学費のほとんどを賄える額が給付されるようになりました。また月額3～12万円から選べる貸与型奨学金の制度もこれまで通りあります。

・新潟県には「海外大学奨学金」という貸与型の留学支援制度があります。

・英語検定試験の IELTS にも奨学金制度があります。

大学からの財政援助:

留学生が応募できる財政援助をどうやって探せばよいのか、大使館などに問い合わせてみるのも一つの手段です。入念な事前調査をすることで、成功する可能性が高まります。全ての大学が財政援助を用意しているわけではありません。むしろ、アメリカ国民ではない学生に財政援助できる大学は全体の半数に満たないのです。アメリカの学生向けの財政援助は、留学生向けの財政援助とは別物です。入試事務局に自分の国籍を伝え、アメリカ国民でない学生を対象とした財政援助に関する情報を求めてください。財政援助は、通常、助成金や奨学金、時にはローンやパートタイムの仕事など各種の援助から成り立っています。公立大学、あるいは工学、経営学、医療専門職などの専門職養成課程のある大学では、財政援助はほとんど行われていません。私立の一般教養カレッジの方が、財政援助は多いかもしれません。いろいろな大学を調べながら、行きたい大学を一覧表にしてみましょう。年間費用を書き込み、各大学が出している財政援助の平均額と件数を記入してみれば、自分にとって一番のチャンスはどこにあるのかが分かり、たとえ入学を許可されても十分な財政援助を受けられそうにない大学を候補から外すことができます。

留学生は、航空運賃以外全ての教育費を賄える全額給付奨学金を期待することが多いです。しかし、アメリカの留学生に毎年与えられる全額給付奨学金の数は2,000件ぐらいで、提供しているのはわずか100校ほどしかありません。全額給付奨学金を獲得するには、自国で最も優秀

な学生の1人であり、ほとんど全ての科目でA(優秀)の評価を得て、ACTかSATの点数とTOEFLまたはIELTSの点数が高く、指導力や地域ボランティア活動など他の分野でも著しい業績を挙げていなければなりません。それぞれの奨学金の獲得を目指して、世界中から応募している上位20人の学生が競っているのですから、あなた自身も傑出した学生の一団の中で、ひときわ目立たなければなりません。入学を許可した学生全ての財政的必要性を満たせるのは、一握りの裕福な大学だけです。(そのような大学の入学競争率は、非常に高いのが普通です)。財政的必要性とは、自分と家族が出せる額と、大学で学ぶための費用見積もりとの差額です。前者は、自分の両親の財政状況に関する詳細な情報を基にして計算しますが、それには預金残高証明書、雇用主からの証明書、その他の公的な文書や証明書など、裏付けとなる証拠が含まれます。学生の財政的必要性に基づいて与えられる奨学金がかなり限られている大学も、そうした証拠の提出を求めてきます。大学からの財政援助は年度初めに提供され、学年途中の1月またはその他の時期に入学する学生に与えられることはめったにありません。他の学校からの編入生よりも1年生の方に多くの援助が与えられます。

雇用:

現在の移民規則は、F-1またはJ-1の学生ビザで入国した留学生に、学期中は週20時間まで、休暇期間中はフルタイム、大学キャンパス内で働くことを許可しています。週に10～15時間働けば、本や衣服、個人的出費など臨時の雑費を賄うのに十分な金額を得ることができますが、授業料や部屋代、食費など主な出費は賄えません。また、この収入は、どのような公式の財政能力申立書にも収入の一部として入れることはできません。キャンパスでの仕事の例としては、大学の食堂や書店、図書館、あるいは大学の管理事務部門で働くことなどがあります。最初の年が終わると、大学の学生寮の寮長アシスタント(RA)の仕事にも応募できます。RAは、学生が手助けを必要とするときや、寮生活について質問がある場合に、最初に連絡する相手です。その見返りとして、RAは無料で寮に住むことができたり、少額の給与がもらえたり、寮の食費が免除されることもあります。現在の規則では、留学して最初の1年が経過した後、経済的困難を立証できれば、学期中は週20時間まで、休暇中はフルタイムで大学の外で働く許可を国土安全保障省に申請できます。しかしこの申請が必ずしも許可されるわけではないので、過度の期待を持つことはやめましょう。

＜教育経費を抑える＞

資金計画の際に、以下の経費節減方法を検討してみましょう。

ベストバイ(最もお買い得の学校):

最も質の高い教育を最も安い費用で提供する大学を探しましょう。それは、あなたが目指す専攻や住みたい地域によって変わります。

履修期間の短縮:

4年間の学士課程を3年間で済ませれば、何千ドルもの節約になります。学生は以下の方法で履修期間を短縮できます。

・近くのコミュニティ・カレッジの授業料が安く、単位の移行が可能な場合には、そこの科目を取る。
・夏期講座があれば、それを受講する。
・学期ごとに履修科目を1つ追加する。

授業料の免除:

初年度の成績に基づいて、授業料の一部を免除する大学もあります。優秀な学業成績だと何千ドルも節約できるかもしれません。これを得るには相当な努力が求められます。

生活費:

学生寮の寮長アシスタント(RA)になれば、生活費を何千ドルも節約できます。適切な住宅に入れて、公共交通機関の利用が便利な場合には、キャンパスの外で親戚や友人と一緒に暮らせば節約になります。

2年間のコミュニティ・カレッジ:

最初の2年間はコミュニティ・カレッジに通い、その後4年制大学に編入して学位を取得することで、授業料を数千ドル節約する学生が大勢います。

＜規模＞

学生数は、200人から6万人までと幅があります。郵便局や食品雑貨店、ショッピングセンターを備えた小都市のような大学もあれば、人口密度の高い大都市にあっても、学生数が非常に少ない大学もあります。自分の生活スタイル次第で、学生数の非常に多い大学に在籍することから得られる主体性・独立心を満喫することも、小規模の大学のもっと人間的な接触の方を選ぶこともできます。社会生活や教授陣へのアクセスについては、大学ごとに異なるので注意しましょう。

＜留学生＞

各大学に在籍する留学生数は、10人未満から7,000 人以上まで幅があります。大学要覧には、多くの場合、他のデータと共に、何人の留学生が在籍しているのか正確な人数を掲載しています。こうした数字を検討する際には、自分自身の必要性を考えてください。ほとんど留学生がいない大学では、自分自身が、数少ない非常に特別な存在と周囲から見られるかもしれません。しかし、こうした学校では留学生向けサービスが少ないかもしれません。留学生の多い大学には、親身になって世話してくれる既成の支援グループがあるかもしれませんが、現地学生と知り合い交流するためには、並々ならぬ努力が必要かもしれません。

＜提携関係＞

どの大学も、あらゆる人種、皮膚の色、宗教の学生を受け入れていますが、中には、比率は低いですが、宗教的雰囲気を持つ大学や男性あるいは女性だけを教育する大学、特定のバックグラウンドを持つ学生が共に暮らし学べる大学など、特殊な大学もあります。出願予定の大学の設立理念を読み、自分の目標が大学の目標と合致するかどうか判断してください。4,000を上回るアメリカの大学のうち、800校余りが特定の教会の宗派ないし宗教的伝統と関係を持つ学校で、60校が男子校、約50校が女子校です。米国の高等教育制度には、黒人のために設立された大学(HBCU: Historically Black Colleges and Universities)やヒスパニック系学生のための大学(HSI: Hispanic-serving Institutions)のように、特定のバックグラウンドを持つ学生のための学校もあります。

＜アイビーリーグを超えて＞

アイビーリーグというと、超一流の大学8校を思い浮かべると思いますが、元々は、東海岸のいくつかの大学のスポーツリーグのことでした。多くの留学希望の学生が、アメリカの大学を調べるにあたり、

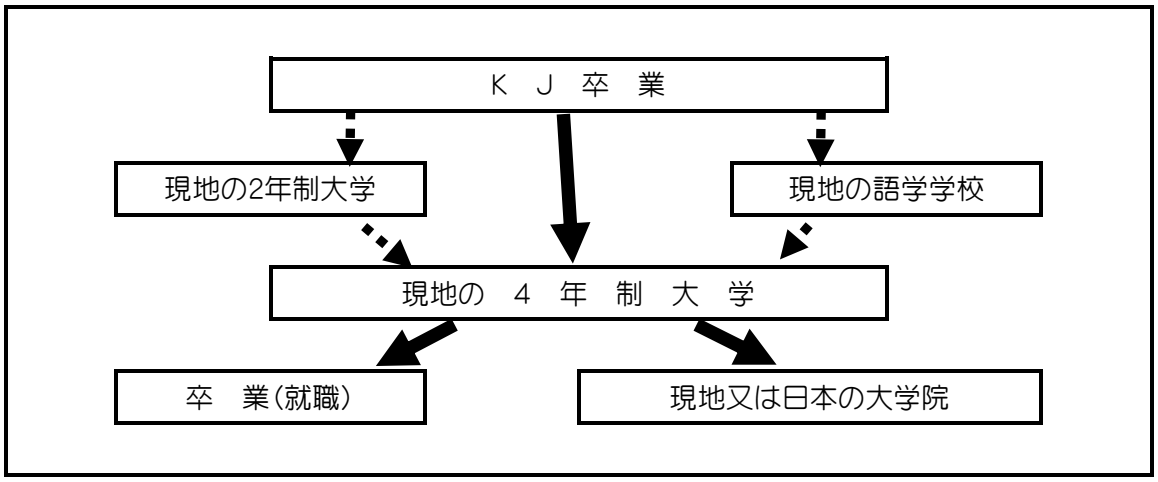
よい教育を受けるにはアイビーリーグの大学に入学しなければならないと思いこんでいます。アイビーリーグの大学はどれも素晴らしい学校ですが、米国には4,000校以上のカレッジや総合大学があることを忘れてはいけません。名前を聞いたことがないというだけの理由で、その大学を志望しないことは避けましょう。自分の興味とニーズに合った学校を見つけるため、あらゆる選択肢を注意深く調べてください。

＜ランキング＞

アメリカには大学の偏差値や上位10校、100校といった公式のランキングはありません。アメリカ政府は大学のランク付けを行っていません。多くのランキングは主観的なもので、大学の教育水準や一般的評価が主要な基準になっているとは限りません。その上、優秀な大学の多くが、ランキングを作成する団体に情報を提供しないことにしています。より定評のあるランキングが大学選びの出発点になるかもしれません。しかし「最良」な大学とは、自分がなぜ留学したいと思うのか、留学して何を学びたいのか、得たいのかに基づいて選んだ、自分にとって最適な大学なのです。

(2)　海外の大学に入学するためには（アメリカの場合）

フローチャート



アメリカの4年制大学の校種と例

校種	主な大学	公／私	TOEFL 基準点	学生数（人）
アイビーリーグ	ハーバード大学 イエール大学　等	私立	100 点～	4,000～13,000
パブリック アイビー	カリフォルニア大学 ニューヨーク州立大学　等	州立	80～90 点	平均 20,000
リベラルアーツ カレッジ	スミスカレッジ（女子大） アマーストカレッジ　等	私立	80～100 点	1,000～3,000

＜高校卒業証書･試験結果＞

アメリカの大学では、留学生に、日本で高等学校を卒業していることを入学の条件にしています。し

かし、アメリカの大学は、入学基準も合格率も非常に多様で幅があります。大学は通常、17歳未満の留学生は受け入れません。

＜標準入学試験＞

出願手続きの一環として、アメリカのほとんどの大学は、アメリカの標準入学試験のうちの1つの試験の結果を提出することを求めます。しかし、留学生には入学試験の受験を義務付けない大学や、どの出願者からも入学試験の点数を求めない大学もあります。具体的な入学試験の要件を知るためには、すでに紹介したウェブサイト *International Student Handbook*（ *The College Board, New York, N.Y.*）や、*Peterson's Colleges and Universities in the U.S.A. — The Complete Guide for International Students*（*Peterson's, Princeton, N.J.*）のようなアメリカの大学要覧を参考にしてください。また、コミュニティ・カレッジは通常、出願者に標準入学試験の受験を義務付けていないことも知っておきましょう。

アメリカの標準入学試験は、主として多肢選択方式の試験で、学部レベルの勉強に必要な技能を評価するためのものです。アメリカの大学は、全ての出願者（アメリカ国内および他国から）を同じ基準に照らして評価する手段として入学試験を使います。高等学校の卒業証書や試験は入学試験に相当するものではありません。また、入学試験は出願手続きの一部に過ぎません。日本の大学とは異なり、入学試験の点数が良いだけで、自分の選んだ学校に合格できるわけではありません。

学部入学審査に関わる主な試験には、次の3つがあります（詳しくは後述）。

・大学進学適性試験（SAT）　・SAT 科目試験　・米国大学入学学力試験（ACT）

大学の中には、独自の試験や追加試験を受験させる場合もあるので、出願を予定する大学には必ず確認しましょう。

＜SAT（大学進学適性試験）＞

SAT 理論試験（年に4回）と SAT 科目試験（年に6回）があります。東京をはじめ、日本国内で受験することができますが、新潟には会場はありません。College Board Account への無料会員登録がまずは必要で、締め切りは試験日の4週間前です。試験日、試験会場、料金、登録手続きなどの詳細な情報は、SAT 留学生受験要綱または SAT のウェブサイト（http://www.collegeboard.org）を参照してください。情報のダウンロードや受験登録をオンラインで行うことができます。College Board（米国の大学入学試験委員会）のウェブサイトには、模擬試験問題が掲載されています。

SAT 理論試験は主に多肢選択方式の試験で、論理的読解力（Critical Reading）、数学的能力（Math）、オプションとして文章作成能力（Writing）を測定するものです。それぞれ800点満点で合計1600／2400点満点で評価されます。小論文では、文章を読み、作者が読み手に伝えるために用いている技法とそれが文にどういった効果をもたらしているかを分析していきます。自分の意見ではなく、作者の意図を読み取って述べていくことを求められます。

SAT 科目試験は主に多肢選択方式の問題で、各科目60分のテストです。特定の科目分野の知識を評価するもので、1科目80点満点、1回の試験で3科目まで受験できます。現在提供されている科目は次の通りです。

・米国史　・生物学　・化学　・中国語　・フランス語　・ドイツ語　・イタリア語　・韓国語
・日本語（日本人は選択不可）　・ラテン語　・文学　・数学　・現代ヘブライ語　・物理学
・スペイン語　・世界史

多くのアメリカの大学、特に難しい入学基準を設けている大学は、入学選考と能力別クラス分けの両方、あるいは複数の SAT 科目試験の点数を提出するよう要求しています。SAT 科目試験の受験登録をする前に、各学校の要件を必ず調べてください。どの科目のテストを受ける必要があるか指定する大学もあれば、受験科目の選択が自由な大学もあります。後者の場合は、自分が最も得意な分野で受験しましょう。

＜ACT（米国大学入学学力試験）＞

大学入学学力試験（ACT）は ACT 社が運営する試験で、年間に最高5回まで受験できます。東京をはじめ、日本国内で受験することができます（新潟には会場はありません）。ACT は教育課程に基づいて行われる試験です。つまり、生徒が学校で学ぶ科目に関して直接生徒を試験するということです。受験登録の締め切りは試験の約5週間前で、インターネットで登録します。試験日、試験会場、受験準備用の無料資料に関する詳細な情報は、ACT のウェブサイト（http://www.act.org/）に掲載されています。

ACT は教育課程に基づいて実施される多肢選択方式の試験で、英語、数学、読解力、そして科学的論理思考力の学力を測定するものです。また、任意で選択できる小論文のパートも含まれています。ACT の小論文を受験する必要があるかどうかは、出願先の大学に確認してください。

4つの科目分野のそれぞれについて、正解数の合計である素点がつきます。素点は1点から36点までの点数に変換されます。各分野の点数を足し、4で割り、総合点を計算します。総合点の最高点は36点、最低点は1点です。大学へ点数が報告されるまで2～8週間かかります。

＜英語能力＞

英語圏で勉学するための基本的な要件の1つは、英語でのコミュニケーション能力です。英語圏の大学は入学を許可する前に、英語能力検定試験を受けるよう求めています。英語能力検定試験の中で最も一般的な2つの試験、TOEFL（外国語としての英語のテスト）と IELTS（国際英語力試験）を紹介します。各大学は英語について独自の入学基準を設けているので、出願先の大学に問い合わせて要件を確認してください。大学での勉強を開始する前にその大学で行われる英語の授業に通うという条件付きで、入学を認める学校もあります。必要とされる英語の水準に達すれば問題ありませんが、英語圏で勉強を始めるのに十分な英語能力があることを証明できなければ、学生ビザがとれない場合もあります。

＜TOEFL（主にアメリカへ留学する場合必要）＞

TOEFL は、英語を母語としない人が学問の場で、英語で意思疎通できるかどうかの能力を測定するものです。インターネット版の TOEFL 試験（TOEFL iBT）は、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4部門に分かれています。120点満点で4年制の大学に進学するには最低でも60点以上が必要とされます。これは、単純には比較できませんが、英検でいうと2級以上になります。上位の大学であれば、英検準1級でも力不足かもしれません。試験は最長4時間かかります。試験は、認定を受けた試験会場（KJ で受験できます）から、保護されたオンライン試験ネットワークに接続したコンピューター経由で実施されます。TOEFL の受験登録はインターネット、電話、郵便で受け付けており、事前登録が必要です。

＜IELTS（主にカナダやイギリス、オーストラリアに留学する場合必要）＞

IELTS は「読む」「聞く」「書く」「話す」という英語能力を評価するペーパーテストです。IELTS のうち読解と作文については、「アカデミック」と「ジェネラルトレーニング」の2種類が実施されていますが、リスニングと会話の部門はどちらも1種類です。大学への入学を目指す受験者は、通常、読解と作文の

試験は「アカデミック」版で受験します。「ジェネラルトレーニング」の方は、実用的な活動のため、職業訓練を受けるため、仕事のため、あるいは移住のためなど、日常生活で英語を必要とする受験者のためのものです。受験登録の情報については、IELTS のウェブサイト（www.ielts.org/）を確認してください。ウェブサイトから「受験要綱（Information for Candidates）」をダウンロードできます。また、IELTS センターのリスト、試験日、自国の通貨に換算した受験費用などの情報もウェブサイトに掲載されています。

（3） 海外の大学を卒業するためには（カナダやアメリカの場合）

カナダやアメリカの大学の特徴の1つは、非常に柔軟性（Flexibility）に富んでいるということです。通常、幅広い多様な科目から選択して、自分だけのユニークな学習プログラムを作ることができます。一定の単位数を満たせば学位（大学卒業資格）が授与されます。大学卒業には通常4年かかります。

＜成績＞

大学では、履修した科目ごとに成績をつけます。自分が授業のために行うことのほとんど全てが、成績に影響します。レポート作成の宿題、実験報告、実験室またはスタジオでの作業、授業への出席、授業への参加態度などの全てが、成績を決定する上で考慮されます。つまり、遅れずに課題をこなし、日頃からきちんと授業に出席することが非常に重要だということです（KJ サイクルと同じです）。下に挙げるのは、大学でとった授業の成績評価に使われるアルファベットが、一般的に100点満点で何点に相当するのかを百分率で表したものです。

100－90% = A　89－80% = B　79－70% = C　69－65% = D　64－0% = F

＜GPA とは＞

学生が卒業に必要な単位を取得すると、成績評価点平均値（GPA）が出されます。成績評価点の累加平均が、全体を通じて履修した全ての科目の GPA ということになります。大多数の大学は、4.0 を満点とする GPA 方式を使っています。GPA を計算するには、各科目の成績評価点（通常は A なら 4.0、B なら 3.0 など）とその科目の単位数を掛け算し、それを全部足して、最後に全科目の合計単位数で割ります。例えば、以下のようになります。

成績	数値	単位数	合計
A	4.0	3	12
B	3.0	4	9
C	2.0	3	6
	合計	10	27

27 ÷ 10 = 2.7 GPA

多くの大学では、成績優秀者に対して何らかの優等学位を授与しています。優等学位を受けるためには、追加的に単位を取る、優れた論文等を書く、集中的に学んだ分野の総合試験を受験する等のうち1つを満たすだけでよい場合や、その全部を満たさなければならない場合もあります。

（4） 海外の大学を受験する準備

自分のニーズ、関心、能力に見合った大学を数校に絞り込み、入学の最低要件を満たしていて、海外の大学で教育を受けるための費用準備が整いそうになれば、いよいよ出願書類の準備です。

学生ビザ申請を含む出願手続きは、2年生の後期から、遅くとも3年生の前期には始めることが必要です。1年未満で出願を完了できる場合もありますが、通常は遅く出願すると大学の選択肢が格段に狭まり、財政援助を受けられる可能性も下がります。

＜入学試験の受験登録＞

9月（秋学期）に大学入学を予定している場合は、該当する試験を遅くともその年の1月までに、できればそれ以前に受験するようにしましょう。各大学に問い合わせて、ACT または SAT 理論試験と SAT 科目試験を受ける必要があるか確認しなければなりません。同じ日に SAT 理論試験と SAT 科目試験を両方受けることはできないこと、受験登録締め切り日は試験日の5～6週間前ということに気をつけること。試験の点数は出願締め切り日の前に各大学に届く必要があるので、試験日と出願締め切り日の間が少なくとも4～6週間は空くようにしましょう。TOEFL または IELTS の受験登録も必要です。ACT や SAT と同様に、試験結果が必ず出願締め切り日前に大学に届くようにしましょう。TOEFL または IELTS の受験免除資格があると考えられる場合には、直接大学に連絡し、その事情を説明しましょう。受験日の最低1カ月前には試験対策本やその他の必要事項について調べましょう。

＜入学願書＞

入学願書は受験する大学に好印象を与えるよう、整理され分かりやすくしなければなりません。手書きで記入するよう指示されている場合以外は、パソコンのワードや一太郎等を使用しましょう。記入事項は申込書の所定の欄におさまるようにし、別紙を使うのは必要な場合のみにします。自分に関する情報には一貫性を持たせ、氏名は全ての書類に同じ綴りで記入しましょう。これにより、大学側による出願書類の追跡が容易になります。大きな大学は、毎年何千人もの学生の書類を処理しています。アメリカの社会保障番号は記入する必要はありません。指示に従って空欄にするか「なし（英語で）」としてください。略称や略号は避け、学校、試験や賞などの名称、住所も省略せずに書きましょう。学歴や職歴を挙げる際には順序立てて、指示に従い時系列または逆時系列で記入しましょう。留学開始希望時期やレベル（普通は「新入学、1年生」か「編入学」）、取得希望学位も記入が必要です。専攻を記入する欄には、決まっていない場合は「未定」と書いても構いません。

＜受験料＞

多くの大学が、出願書類の処理代金として、払い戻しできない受験料を請求します。支払いは米ドル建てで、海外の銀行宛て振り出し小切手か、国際為替、またはクレジットカードで行う必要があります。大学の出願申込書、ウェブサイトまたは大学案内で現行の受験料と支払い方法を確認しましょう。

＜成績証明書＞

どの大学も、学歴の証明として特定の正式書類の提出を求めます。カナダやアメリカではこれらは「成績証明書」と呼ばれ、高等学校で履修した科目と履修時期、成績評価が記されています。留学生について、留学生専用の用紙を設け、その用紙に志願者の成績を記入したり、他の学生と比較して学力を

説明したりするよう、志願者の出身校の担当者に求める場合があります。そのような用紙を受け取らなかった場合でも、出身校が捺印した学校の便せんに同様の情報を記載した公式書類を提出します。入試事務担当者が成績評価方法や学年成績順位の算出方法、履修した科目の内容説明などを求めてきた場合には、できれば 3 年生のクラス主任に回答してもらうようにしましょう。入試事務担当者は、過去の学業の成績証明書について、志願者の母校が封緘（ふうかん）した封筒入りの成績証明書が志願者の願書と一緒に送付されるか、またはその学校から直接送付されることを望んでいます。成績証明書に加えて、高等学校の卒業証書、資格証明書、最終試験結果、あるいは日本で行われた国家試験や卒業試験の成績証明書の認証謄本を送ることとなります。送付書類は通常は返送されませんので、やむを得ない場合以外は書類の原本は送付しないでください。送付書類は学校の公印が押された認証謄本であるか、あるいは、そうした書類を認証する権限を持つ公証人が認証した公証書類の必要があります。書類の英文への翻訳が必要な場合、プロの翻訳家のサービスを利用するか、または自分で翻訳することになります。そうした翻訳も、基準を満たした機関の認証を得なければなりません。そうしたサービスには料金がかかる場合があります。学業成績や履修科目を海外式に換算・変換しようとするのはやめましょう。その代わりに、使われた成績評価方法や授与された卒業証明書、証明書、賞の種類などについての情報を、最大限提供するようにしましょう。

＜各種試験のスコアの通知＞

ACT、SAT 理論試験、SAT 科目試験、TOEFL、IELTS やその他の試験の受験申込時点には、出願希望大学を絞り込んでいることが望ましいです。なぜならば受験申込時にそれらの大学をスコア送付先として指定することができるからです。受験時にスコアを送付する方が、後日スコア送付を別途依頼するよりも時間とお金の節約になります。可能ならば大学への出願時にテストスコア票の受験者用控えのコピーを同封しましょう。こうすれば入試事務局が公式スコアの到着時にそのスコアと出願書類を合致させることがより容易になり、また、公式スコア通知票を待たずにそのコピーだけで、出願書類の処理を始めてくれる場合もあります。

＜身上書・志望動機説明書（エッセイ）＞

カナダやアメリカの多くの大学は入学選考過程の一環として、身上書または志望動機説明書（エッセイ）を提出するように出願者に求めます。大学の入試事務担当者が出願書類のこの部分を読む際には、その学生が大学に貢献できるかどうか、そして大学がその学生が必要としていることに応えられるかどうかを見極める材料にします。大学側はエッセイを通して、出願書類の残りを構成する成績や数字からは分からない、1人の人間としての志願者を判断します。大学は、入学志願者に一定の資質を求めており、それに応じてエッセイの質問を調整します。またエッセイで、入試事務担当者は、志願者の作文能力や学問的能力、まとめる力、その大学に出願する目的、その専攻分野を選んだ理由などを評価します。入試事務担当者は、高い作文能力とともに、知的好奇心や成熟度に目を向けます。エッセイは、時間に十分ゆとりをもって書き、書き終えたものは1週間寝かせておき、再読しても筋が通っているかどうかチェックできるようにしましょう。こうした姿勢はエッセイの中に現れます。この志願者は文章が上手で、エッセイを重視しており、十分な準備をするため喜んで時間をかける人間だということを入試事務担当者に示すことができます。以下、一般的なアドバイスです。

すべきこと:

- 尋ねられた質問にきちんと答える。
- よく覚えている特定の出来事または事件に焦点を絞る。詳しく書くことが重要です。
- 学校生活または家庭生活に影響を与えた何か変わったことがあれば、何でも説明してみることを考える。
- 文法や綴りの誤りを正すため、誰かに目を通してもらう。

してはいけないこと:

- うそを書く。
- 誰かに代筆してもらう。
- 単に見かけをよくするために話題を選ぶ。
- 大学が聞きたいだろうと勝手に憶測したことを書く。出願理由について、ただ真実を書くこと。
- 自分自身についてもっと書く機会なのに、それを活用しない。
- 締め切り日の直前に、エッセイ(または他の出願書類)を書く。

エッセイが、自分自身と自分の能力を真に表しているように書きましょう。エッセイで最も重要なことは、本物で正直であることです。入試事務担当者は毎年、数百のエッセイを読んでおり、ニセものや親が代筆したものを簡単に見抜きます。エッセイは、他の学生ではなく自分を受け入れるべき理由を、大学に納得させる機会なので、誠実に書きましょう。

＜推薦状＞

アメリカでは、少なくとも2通の推薦状が必要になります。推薦状を書く人は、本校の校長、海外大学進学コース課担当、クラス担当、あるいは志をよく知っている教員になるでしょう。推薦者は志願者の学業について説明でき、大学でしっかりと成績を取る可能性を評価できる人でなければなりません。専攻したい科目分野が決まっている場合は、その科目分野の先生に推薦状を書いてもらってください。アメリカ人の教員が書く推薦状は非常に肯定的で、他国の教員のものより長く詳細にわたっていることもあります。また推薦者に推薦状を書いてもらう時間を十分に確保しましょう。大学に郵送する前に、封緘(ふうかん)部分に忘れずに署名をしてもらうよう申し出てください。国や大学によっては、推薦状を必要としない場合もあります。

＜財政能力証明書＞

ほとんどの大学の出願書類には、「財政能力証明書」または「財政援助宣誓書」と呼ばれる書類が含まれています。この書類には保護者または留学費用を負担する人の署名が必要で、銀行または弁護士の認証が求められます。この書類は学生ビザの申請にも必要ですから、写しを保存しておきましょう。大学側は通常、最低でも初年度の留学費用を賄うに足りる財政能力の証明を求めますが、留学全期間についての資金源の提示も求める大学もあります。出願時に大学から何らかの形の財政援助が必要なことが分かっている場合は、大学に申し込みを予定している金額を知らせましょう。多くの大学では、入学選考の際に「(財政面の)ニーズを考慮しない」方針をとっています。つまり、志願者の財政状況は入学を許可するかどうかの決定の考慮事項ではない、ということです。ただし大学側は、収入源を書類で完全に証明できる場合にのみ学生ビザ取得のための在留資格証明書を発行するので、注意してください。

＜提出期限＞

大学はそれぞれ独自の出願締め切り日を設定しています。締め切りは通常1月と3月の間ですが、早いところでは11月、遅いところでは6月の場合もあります。ただし大学が「締め切り日を設定していない（“rolling admissions”）」場合、1年生の定員に達するまで志願者の入学を許可します。しかしあくまでも、出願書類はできるだけ早期に提出するのが賢明です。競争率の高い大学は「早期決定」の締め切りを設けています。この場合、通常11月という早い時期に出願することになり、その大学しか出願できません。その大学への強い思い入れを表明することで、その願書は通常の出願者よりもいくらか好意的に考慮される場合があります。入学が許可されれば、間違いなくその大学に入学すると確認することが求められます。入学が許可されなければ、他の大学に自由に出願できます。全ての必要書類、入学願書、推薦状および公式スコア通知票が締め切り前に無事に大学に着くようにするのは自分の責任です。出願書類の送付には書留郵便を使い、締め切り日が迫ってきたら、宅配便を使いましょう。大学に電話するか電子メールを送って、出願書類一式を受け取ったか、必要な書類は全て入っていたかを確認することも必要です。入学願書と関係書類は万一の郵送中の紛失に備え、写しを保管しておきましょう。そうすれば、もし紛失した場合でも、すぐにもう1セット送ることができます。

＜面接＞

一部のアメリカの大学では、日本で出願者と面接します。日本に住んでいる、その大学の元学生（卒業生）が面接することが多いです。なお、面接を受けられないからといって、留学を希望する受験生が不利になるということはありません。ただし、日本国内で面接をしてもらえる機会に恵まれた場合は、それを逃さないようにしましょう。自分のコミュニケーション能力を試し、元学生から直接その大学についてもっと知ることができるよい機会となります。

＜共通入学願書＞

この標準化された入学願書は、ウェブサイトから入手でき、アメリカでは400校近くの大学で使用されています。こうした大学は、共通入学願書と大学独自の願書を平等に審査することを保証しています。州独自や姉妹校独自の共通願書を用いているところもあります。

＜合格通知＞

9 月に留学開始を予定している場合は、その年の 4 月中旬までには出願先の大学から合否の通知が来るはずです。合格して入学を希望する場合、手付金の支払いを求めてくる大学もあります。そのような大学は、入学枠を確保しておく期間に制限を設けているからでしょう。複数の大学から合格通知を受け取った場合には、辞退する大学に断りの連絡をし、まだ補欠になっている出願者に大学が入学許可を伝えることができるようにしましょう。また未使用の学生ビザ用在留資格証明書も、入学を辞退した大学に返送するようにしましょう。通常はこの時期に住居、健康保険やオリエンテーションについての情報が大学から送られてきます。

(5)　海外の大学への編入（アメリカの場合）

アメリカの大学の魅力的な特徴の1つは、1つの大学から別の大学へ編入できることです。アメリカの大学の単位制度は柔軟なため、所定の基準さえ満たしていれば、1つの大学で取得した単位が別の大学でも認められます。毎年9月には100万人を超す学生が別の大学に編入し、それに加えて学年半ばの春学期（2 学期制の場合）の初めにも学生たちが編入します。こうした学生の多くは学士号を取得するために、コミュニティ・カレッジから4年制大学に編入します。この他、最初から4年制大学で学生生活を始めた学生でも、個人的、学問的、または財政的な理由で、他の4年制大学への編入の道を選ぶ者もいます。日本を含め外国の大学からアメリカの大学へ編入する学生は少数です。ほとんどの大学は、大学を卒業する前に「2年間の在籍」を義務付けています。これは、ある大学を卒業し学位を取得するためには、少なくとも2年間その大学で勉強しなければならないということです。一般的にほとんどの編入生は、2年生か3年生の時に新しい大学に編入します。

＜単位の移行＞

編入したい大学を選ぶ際、これまでに受講した科目のうち、いくつを現在通っている大学から新しい大学へ移せるか調べる必要があります。最初に学んだ大学で取った単位を認めるシステムは「単位の移行」と呼ばれ、単位移行の方針と手続きは学校によって大きな違いがあります。大学がどの科目の移行を認めるかは、成績証明書と、最初に通っていた大学や科目の概要などに関する情報に基づいて決定します。大学は通常、合格通知を発行した際に、移行科目の非公式の見積もりを出すことができますが、どの科目の単位の移行が認められるのかの最終的評価は、その大学の専攻学科の長が決めるまで待つことが多いです。最初の大学で取得した科目の一部が、移行を認められないことがあります。そのような場合、卒業まで時間がさらに必要になるし、予定通り卒業したいのであれば、履修する講義数を増やした上に夏季講座を取る必要が出てきます。加えて、ほとんどの大学は、以前通っていた大学から移行できる単位の上限を決めています。特定の大学の編入方針については、直接、編入先の大学に問い合わせることが必要です。一般的に、アメリカで大学を卒業するには、学生は3種類の科目群を取ることを義務付けられています。一般教養、専攻分野、そして選択科目です。前に通っていた大学から新しい大学へ移行した科目は、学位取得の所要単位として計算に入れたい場合、この3種類の中の1つに該当しなければなりません。この手続きが実際にどう行われるかを、以下で説明します。

＜アメリカの大学間で編入する場合＞

一般教養の必修科目は多くのアメリカの大学で似ているので、アメリカの大学の1つから別の学校に編入する学生は、履修した科目が簡単に認められ、移行できる可能性は大きいです。ある専攻分野の必修科目として受講した科目の移行は、新しく入った大学がその専攻分野を開設していない場合は特に、移行が認めてもらえないことがあります（例えば、ビジネス関係の科目を開設していない大学にそうした科目を移行しようとする場合です）。特定の専攻分野で取った科目が、編入先の大学の同じ専攻分野の要件に合わない場合もあります。編入先の大学は、その大学の専攻分野で義務付けられている全科目を履修しなければならないかもしれません。専攻分野の所要単位としても一般教養の必修単位としても認められない科目でも、選択科目の単位としては認められるかもしれません。しかし、それさえも不可能な場合には、単位の移行が全く認められないか、またはそれらの科目について単位移行は認めるけれども、卒業所要単位としては認めないということになります。移行単位数がいくつになる

かを調べる際、編入目的で普通に単位を移行することと、ある専門分野の学位を取って卒業する場合の卒業所要単位として単位を移行することの違いを確認し理解することが重要です。前者の場合はさらに明確にすることが必要で、編入する際にいくつか単位を失うこともあります。後者の場合は、通っている学校で履修した科目のうち、正確にどの科目とどの単位が編入先の特定の専攻分野（例えば数学や歴史学）の科目要件に合うのかが確実になります。The College Board が発行する *The College Handbook for Transfer Students* には、単位を最大限移行する方法についての助言が載っており、以下のような点が含まれています。

- 義務付けられている一般教養科目は、最初の2年間でどんなものでも履修しておくこと。
- 最初の大学で、自分の専攻分野の基礎必修科目は、どんなものでも履修しておくこと。これらの科目は他大学に編入する際、特に競争率の高い専攻分野の場合は、後々助けになる。
- 専攻分野の必修科目は移行が難しいので、そうした科目の大部分を、編入先の大学で取るように計画すること。
- コミュニティ・カレッジで学んでいる場合、アカデミックアドバイザーに協力してもらって履修計画を立て、「編入用科目」と指定されているものを取ること。
- 単位移行に関する決定の再考を、大学側に要請できます。成績証明書や講義概要だけでは、情報が不足していて、大学が単位を認定できないことが時々あるからです。従って、さらに詳しい情報を提供すれば移行を認めてもらえるかもしれません。

＜編入手続き＞

編入生の出願手続きには時間がかかります。編入する予定日の少なくとも1年前には計画を立て始めることが必要です。それぞれの大学案内にある「編入」の項目を注意深く読んでください。そこにはよく、単位の移行に関する大学の方針が含まれています。編入生の出願手続きは、新1年生として入学する場合と少し異なります。編入生は、別個の入学願書に記載することが多いのですが、編入先の大学が知りたいのは、主に以下の2点です。

- なぜこの大学に編入したいのか。

編入を望む理由の要点を述べた身上書の提出を求められますが、これは出願書類の中で最も重要になります。今通っている大学になぜ不満なのかなどの苦情を述べるものではなく、なぜ編入先の大学の方が、自分が学問上必要としていることにもっと適合しているのかということを伝えてください。

- どのような科目を履修したのか、または今履修しているのか。

これまで大学でどのような経験をしてきたのでしょうか。編入希望の学生は、今在籍している大学で優秀であること、高等教育で自分の能力を発揮してきたことを期待されています。上記に加えて、推薦状、成績証明書、入試試験の点数、出願エッセイなど、新1年生を目指す出願者と同じ書類を大学に提出する必要があります。編入は競争率のより高い大学に簡単に入るための方法ではありません。むしろ、より難関の大学の多くでは、編入生の入学許可基準が新1年生の場合よりも厳しくなっています。多くの大学は、新1年生と編入生の双方の合格率を出しており、それを見れば、編入するための競争が決して甘くないことがよく分かります。

(6)　用語集

Academic Adviser (AA)

アカデミックアドバイザー。学業に関する事項について学生を支援し、助言をする大学教員。

Academic Year

学年。公式に授業が行われる期間で、通常は9月から5月まで。前後期、3学期あるいは4学期と、いろいろな長さの学期に分割される。

Accreditation

認定。全国公認の専門職協会ないし地域認定団体による大学の承認。試験。学部課程への入学に使われる多肢選択式の試験で、英語、数学、読解、科学的論理思考の科目がある(選択で作文が追加される)。

Add/Drop

アッド／ドロップ。学期初めに学生が教師の許可を得て、履修講座の登録を追加または削除できる手続き。

Advance Registration

事前履修登録。他の学生より先に履修科目を選ぶこと。

Affidavit of Support

財政援助宣誓書。個人または団体からの財政援助の約束を証明する公式文書。

Assistantship

助手職。助手職手当。授業助手として授業や実験・実習室の監督をする、あるいは研究助手として研究の手伝いをするなど、一定の仕事の対価として大学院生に提供される財政援助の勉学助成金。

Associate Degree

準学士号。2年間の履修後に授与される学位。最終的な学位である場合(terminal:職業課程)と、編入する場合(transfer:学士課程の最初の 2 年間)がある。

Attestation

認証。学位や成績証明書が本物であることの正式な確認。通常、認定を受けた専門家または証人が署名する。

Audit

聴講。学位取得のための単位を取らず、受講だけすること。

Authentication

認証。真正かつ真実であることの証明。何かを申告した場合に、実際に申告されたとおりであることを確認する作業。米国の学習課程に入学を希望する学生は、出願する際に、学業成績証明書や前の学校で取得した学位が本物であることを証明する書類を提出するよう義務付けられることが多い。

Bachelor's Degree

学士号。教養課程または専門分野で、約4年間のフルタイムの勉学を修了すると授与される学位。

Class Rank

学年成績順位。ある学年の学生全員の中で、学生の成績順位を示す数字または比率。例えば、100人の学生がいる学年で1位の学生は1／100となるが、最下位の成績の学生は100／100となる。学年成績順位はパーセンタイル値で示されることもある(例えば、上位25パーセントなど)。

Coed

共学。男女両方の学生を受け入れるカレッジまたは総合大学。男女両方が住む学生寮をいう場合もある。

College

大学。カレッジ。学部課程教育を提供する高等教育機関。修士課程レベルの学位が提供されている場合もある。これとは別の意味で、「カレッジ・オブ・ビジネス」のように総合大学（university）の1部門を表すこともある。

College Catalog

大学案内。大学の学術プログラム、施設・設備、入学要件、および学生生活に関する情報を提供している大学の公式出版物。

Core Requirements

必修科目。学位を取得するため履修する必要のある科目。

Course

科目。学期中、週に1～5時間（またはそれ以上）の定期的に授業が行われる講座。学位プログラムは、指定された数の必修科目と選択科目で構成され、教育機関によって異なる。

Credits

単位。学位に必要な科目の修了（「可」以上の成績）を記録するために大学が使用する単位。大学案内には、その大学の学位取得に必要な単位の数と種類が明記されており、また各科目の数値が「履修時間数」や「履修単位数」で記載されている。

Day Student

通学生。大学が管理する居住施設ではなく、キャンパス外に住んでおり、授業を受けるために毎日通学する学生。成機関が、規定の学業プログラム修了時に授与する卒業証書または称号。

Department

学科。高等教育機関（カレッジ、総合大学、または専門職養成機関の）組織管理上の下位部門で、そこを通じて特定の学問分野の指導が行われる（例えば、英語学科や歴史学科など）。

Designated School Official（DSO）

指定大学職員。指定大学職員（DSO）とは、留学生に関する情報を収集して学生・交流訪問者情報システム（SEVIS）に報告し、ビザや就労資格申請手続きの面で留学生を支援する大学の担当者。DSO の氏名は、I-20 または DS-2019 に記載される。

Dissertation

博士論文。独自の研究テーマについて書かれた論文で、これを提出することが博士号（Ph.D.）取得のための最終要件の 1 つとなっている。

Doctorate（Ph.D.）

博士号。大学が授与する最高学位。学士号または修士号取得後さらに最低3年間の大学院課程を修了し、口述・筆記試験、および論文の形で提出した独自の研究で学術能力を示した学生に授与される。

Dormitories

学生寮。大学のキャンパス内に設けられた学生用居住施設。一般的な学生寮には、学生用居室、バスルーム、談話室などがあり、カフェテリアを備えている場合もある。略してドーム（dorms）と呼ばれることもある。

Electives

選択科目。学位取得に必要な単位を取るために学生が選んで受講する科目。必修科目と区別される。

Extracurricular Activities

課外活動。大学の授業科目外で行われる学業以外の活動。

Faculty

教授陣。アメリカの大学で授業を担当する教員。教授、准教授、助教、講師が含まれる。

Fees

納付金。大学が教育機関として提供するサービスの費用を賄うために授業料とは別に請求する金額。

Fellowship

研究奨学金。通常は大学院生に与えられる財政援助の形態の1つ。一般的に、援助を得る学生が何らかの勤労を求められることはない。

Final Exam

最終試験。よく「ファイナル」と呼ばれる最終試験とは、個々の科目について授業期間中に扱った内容全てが出題範囲の試験。

Financial Aid

財政援助。金銭、ローン、および勤労修学プログラムの全ての種類を含む総称で、授業料、納付金、生活費などの支払いを助けるために学生に与えられる援助。

Fraternities

フラタニティー。アメリカの多くの大学にある、交友、学業、慈善活動のための男子学生の組織。

Freshman

フレッシュマン。高校や大学の１年生。

Grade/Grading System

成績・成績評価法。学生の学業についての評価。

Grade Point Average(GPA)

成績平均点。履修した各科目で得た成績の数的平均値に基づき学業成績を記録する方式。

Graduate

卒業生。大学院の。高校または大学レベルで学習課程を修了した学生。総合大学の大学院プログラム(a graduate program)は学士号既得者を対象とした課程。

High School

高等学校。米国で中等(教育を行う)学校(secondary school)を指す用語。

Honors Program

オナーズプログラム。成績優秀な学生を対象とした難易度の高いプログラム。

International English Language Testing System(IELTS)

国際英語力試験。アイエルツ。英語を母語としない出願者の英語力を測る試験。

International Student Adviser (ISA)

留学生アドバイザー。米国政府の規則、ビザ、学業規則、社会的習慣、言語、金銭や住居の問題、旅行計画、保険、法的問題などについて、留学生に情報を提供し助言する大学の担当者。

Junior

ジュニア。高校や大学の3年生。

Liberal Arts

一般教養。学生の口頭表現力、文章を書く力、論理的思考力を伸ばすことを目標とする、人文科学、社会科学、自然科学系の科目の学問的研究を指す用語。

Maintenance

生活費。家賃（寮費）、食費、書籍代、衣服代、洗濯代、交通費、雑費など、大学に通う間にかかる経費を指す言葉。

Major

専攻。学生が専念したいと思う学問領域。

Master's Degree

修士号。学士号取得後、通常は最低 1 年間の修学を含む学業要件を満たすことによって授与される学位。

Midterm Exam

中間試験。学期前半が過ぎた後に行われる、その時点までの講座履修内容全てが出題範囲の試験。

Minor

副専攻。学生が2番目に重点を置いて学習する学問領域。

Non-resident Student

非居住者学生。州の居住者要件を満たしていない学生。居住者と非居住者では、授業料や入学許可方針が異なる場合がある。留学生は一般に非居住者に分類され、授業料減額を目的に後から居住者に変更できる可能性は極めて少ない。「州外」（out of state）学生と呼ばれることもある。

Notarization

公証。文書（または陳述、署名）が、真正かつ真実であることを公務員（米国では「公証人」と呼ばれる）、または宣誓管理官でもある弁護士が証明すること、およびその証書。

Placement Test

レベル分けテスト。所定の分野で学生を適切な講座に入れることができるように、その分野の学力を測定するために使われる試験。レベル分けテストの結果に基づいて、学生に科目の単位が与えられる場合もある。

Prerequisites

必須課程・科目。さらに上級の課程や科目の履修を認められる前に、修了しておかなければならない課程や科目のこと。

Registration

履修登録。クオーター、セメスターないしはトライメスターの学期中に履修する科目を学生が選択する手続き。

Resident Assistant (RA)

学生寮の寮長アシスタント。キャンパスにある学生寮の寮長を補佐する人。寮生活に関して問題や疑問がある場合に、通常寮生が最初に連絡する相手。RA は普通、その大学の学生で、RA として働くかわりに住居の無料提供などの恩恵を受ける。

SAT

大学進学適性試験。数学と英語の能力を問う、主に多肢選択式の試験で、学部課程の入学試験として使用される。

Scholarship

奨学金。通常は学部課程の学生に与えられる財政援助の修学助成金。授業料と納付金の両方またはどちらか一方が免除になる形もある。

School

スクール（学校）。通常、小学校、中学校、高校を指す用語。さらに「カレッジ」「ユニバーシティ」「インスティテューション」などの言葉の代わりにも使われる。また「ロースクール（法科大学院）」、「クラジュエートスクール（大学院）」など、教育の場を指す一般用語としても使われる。

Semester

セメスター。約15～16週間、または1学年の半分の学習期間。（2学期制の1学期）

Senior

シニア。高校や大学の4 年生。

Social Security Number(SSN)

社会保障番号。老齢者・遺族・廃疾者年金保険料を給与から天引きするためにアメリカ政府が国民に発行する番号。定期的に働く人は誰でも社会保障番号を取得しなければならない。多くの大学が、学生の ID 番号として社会保障番号を使用している。

Sophomore

ソフォモア。高校や大学の2年生。

Sororities

ソロリティー。米国の多くの大学にある、交友、勉学、慈善活動のための女子学生の組織。

Special Student

聴講生。講座を受講しているが、学位課程に在籍していない学生。

Student and Exchange Visitor Information System(SEVIS)

学生・交流訪問者情報システム。アメリカへの渡航前および滞在中、留学生・交流訪問者のデータをオンラインで管理するシステム。アメリカ国土安全保障省が管理運営する学生・交流訪問者プログラム（SEVP）の一環。

Syllabus

講義要綱。講義・授業で取り上げる題目の概要。

Teaching Assistant (TA)

授業助手。大学から何らかの形の財政援助を受ける代わりに、自分の専攻分野の学部科目のインストラクターをする大学院生。

Test of English as a Foreign Language(TOEFL)

TOEFL（外国語としての英語のテスト）。英語が母語でない出願者が受ける英語能力判定テスト。

Thesis

学位論文。学士号または修士号取得を目指す学生が、あるテーマについての研究結果をまとめて執筆する論文。

Transcripts

成績証明書。学生の学業記録の認証謄本

Transfer

編入。学位取得のため、ある大学から別の大学へ移る手続き。

Tuition

授業料。指導や研修の対価として教育機関が請求する金額（書籍代は含まれない）。

University

総合大学。学部と大学院の双方の学位課程を提供する中等教育後の大規模の教育機関。

Zip Code

郵便番号。郵便の宛先に含まれる一連の番号で、アメリカの郵便配達区域を示す。